

『硯北日録』——翻刻・訓読・略注と索引(二) 安政二年

揖斐 高  
日野 俊彦 山口 旬  
藤井 美保子 三浦 億人  
高橋 昭男 重友 克夫  
松原 梨佳 結城 俊治  
アレックスサンドロ・デ・ロッシ

凡例

- 一、本稿は、同題(一)の前稿を継ぐものである。
- 一、本稿の翻刻・訓読・略注の方針は全て前稿と同じである。
- 一、索引に関しては項目の冒頭に凡例を設ける。

※翻刻・訓読・略注の礎稿は次のような分担で各自が作成・発表し、全員で検討して確定した。

松原(正月朔日～二十二日)、結城(正月二十三日～二月十八日)、  
藤井(二月十九日～三月十一日)、日野(三月十二日～四月十二日)、

山口(四月十三日～五月十一日)、三浦(五月十二日～六月六日)、  
高橋(六月七日～二十八日)、結城(六月二十九日～七月二十八日)、  
藤井(七月二十九日～九月十一日)、重友(九月十二日～十月十二日)、  
デ・ロッシ(十月十三日～十二月七日)、日野(十二月八日～二十九日)

※人名索引・全体の調整は山口が担当した。

乙卯日録

温歳十九

正月小

○朔日乙丑晨晴晚曇風寒蚤起登營始着烏帽素袍拝賀午後就列賜盃歸途如田橋両府謁其宰郭内参政邸及神田橋外拜年焉青木春岱飯田咸三来賀此日訪山田氏謁伯母君

朔日乙丑、晨晴れ、晚曇り、風寒し。蚤起し、營に登る。始めて烏帽、素袍を着し、拝賀す。午後、列に就き、盃を賜はる。歸途、田・橋両府に如き、其の宰に謁し、郭内の参政邸及び神田橋外に拜年す。青木春岱・飯田咸三来り賀す。此の日、山田氏を訪ひ、伯母君に謁す。

〔乙卯〕安政二年（一八五五）。

〔素袍〕直垂に似ているが木綿製。もと庶民の常服であったが、江戸時代に御目見の武士の式服となった。

〔正月〕幕府では一月一日の六つ半（午前七時）に、御三家、御三卿、譜代大名などが登城して、御座の間に着座した將軍へ年頭の賀辞を述べる。兎の肉のお吸い物と盃を賜り、小姓により三献の儀が行われる。（『大江戸復元図鑑』）

《余説》『寒檠小稿』卷二の巻頭に「元旦三首」を収める。

○二日内寅快霽有風北角小南長尾梶野機一晴潭梧蔭三英伊沢水谷及久三直藏大和田至試毫詩歌數箋晚來觀月庵酒

餅供

二日丙寅、快霽、風有り。北角・小南・長尾・梶野機一・晴潭・梧蔭・三英・伊沢・水谷及び久三・直藏・大和田至る。詩歌数箋を試毫す。晚来、観月庵に酒餅を供す。

○三日丁卯好晴直朝營巳牌後退出駿台小川街番街市谷小日向礫川本郷茗溪近衢拜年畢矣過小南青木杉本氏

三日丁卯、好晴。直にて營に朝す。巳牌後退出し、駿台・小川街・番街・市谷・小日向・礫川・本郷・茗溪近衢に拜年し畢んぬ。小南・青木・杉本氏に過る。

○四日戊辰淡曇鍛橋桜田永田場溜池氷川築地深川本所浜街拜年焉過兩狩野氏有饗午後微雨時灑晚又晴

四日戊辰、淡曇。鍛橋・桜田・永田場・溜池・氷川・築地・深川・本所・浜街に拜年す。兩狩野氏に過る。饗有り。午後微雨、時に灑ぐ。晚又晴る。

○五日己巳晴和午牌前暴風起朝来拜年近街浅草新橋尽終矣訪佐野石井鈴木氏午時帰家茲日一斎翁董叔倉地次八田村達青木生来賀佐野叔鹿兒亦至私箋数枚

五日己巳、晴和。午牌前、暴風起く。朝来、近街に拜年し、浅草、新橋尽く終ふ。佐野・石井・鈴木氏を訪ね、午時家に帰る。茲の日、一斎翁・董叔・倉地次八・田村達・青木生来り賀す。佐野叔・鹿兒も亦た至る。箋数枚を払ふ。

○六日庚午晴風平野雄三・梧蔭伊沢等来夜小飲徹夜伊生宿此日米夷船退下田港云

六日庚午、晴、風あり。平野雄三・梧蔭・伊沢等来り、夜、小飲して、夜を徹す。伊生宿す。此の日、米夷船、下田港を退くと云ふ。

○七日辛未好晴狩野勝川津田信助大生董玉至

七日辛未、好晴。狩野勝川・津田信助・大生・董玉至る。

○八日壬申霽直登營笹川文青木生来茲日暴暖夜雨蕭蕭到深更南風大起雨勢傾盆

八日壬申、霽。直にて營に登る。笹川文・青木生来る。茲の日、暴かに暖かし。夜、雨蕭蕭たり。深更に到り、南風大に起く。雨勢、盆を傾く。

○九日癸酉雨歇南風尚烈暖如四月頃好晴午時雲俄沸雨如箭雷数大震晚晴大生来伊青生亦至晤語及曙

九日癸酉、雨歇むも南風尚ほ烈し。暖きこと四月頃の如し。好晴。午時、雲俄に沸き、雨、箭の如し。雷、数しば大に震ふ。晚晴る。大生来る。伊・青生も亦た至る。晤語曙に及ぶ。

○十日甲戌霽午曇風冷一浴少寝

十日甲戌、霽。午曇り、風冷し。一浴し、少しく寝る。

○十一日乙亥陰寒午雨趁石井弓場始

十一日乙亥、陰、寒し。午雨。石井の弓場始めに趁く。

〔御弓場始〕「今已后刻吹上御庭江被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>成。御弓場始上覽有<sub>レ</sub>之。」（『続徳川実紀』安政二年一月十一日）

○十二日丙子雨収筒井万来拉青伊二生京生看亀井墨陀三梅墅花正酣矣飲小倉平岩二店初更前歸家此遊大快月明

十二日丙子、雨収む。筒井万来る。青・伊二生、京生を拉し、亀井・墨陀・三梅墅を見る。花、正に酣なり。小倉、平岩二店に飲み、初更前家に帰る。此の遊、大に快なり。月明らかなり。

〔亀井墨陀三梅墅〕「亀戸天神に接する臥竜梅で有名な梅屋敷、嘉永四年に開かれて問もない向島請地村の梅林、若宮村の新梅屋敷を指すものだろうか」（前田愛『成島柳北』）という。

〔小倉〕「隅田川向島絵図」業平橋の近くに「小倉菴」とある。

○十三日丁丑陰寒直営城微震小雨雪乍晴晚来又雪大生前田善助到夜月清朗寒如嚴冬

十三日丁丑、陰、寒し。営に直す。城、微に震ふ。小雨。雪乍ち晴る。晚来又雪。大生・前田善助到る。夜、月清朗。寒きこと嚴冬の如し。

○十四日戊寅晴風高橋幸次至万歳楽如例年玉泉成実西尼会於観月庵予亦与焉有饗月朗

十四日戊寅、晴、風あり。高橋幸次至る。万歳楽、例年の如し。玉泉・成実両尼と観月庵に会す。予も亦た与る。饗有り。月朗らかなり。

「万歳楽」正月には三河から三河万歳が来て、屋敷の中まで入ってうたい踊り祝儀をもらう。(『大江戸復元図鑑』)

○十五日己卯晴寒登殿拝賀如例松岡小川及三生至使広治持俸米券如廩商許夜秋忠助来月如秋霄

十五日己卯、晴、寒し。殿に登り、拝賀例の如し。松岡・小川及び三生至る。広治をして俸米券を持たせ、廩商の許に如かしむ。夜、秋忠助来る。月、秋霄の如し。

○十六日庚辰晴暖青山子来伊生亦至

十六日庚辰、晴、暖かし。青山子来る。伊生も亦た至る。

○十七日辛巳霽春意十分昌平学舎実紀開局余出席属吏十九名来会謁両林子読台廟紀十五之巻午前退散伊大生鹿兒青山等到連霄月明

十七日辛巳、霽、春意十分なり。昌平学舎、実紀開局。余出席す。属吏十九名来り会し、両林子に謁す。台廟紀十五の巻を読み、午前に退散す。伊・大生、鹿兒、青山等到る。連霄、月明らかなり。

「台廟紀」二代將軍徳川秀忠(台徳院)の実紀。

○十八日壬午晴大駕遊須田辺過藤堂侯門巷四隣闔扉駕過後直營大生至月又佳

十八日壬午、晴。大駕、須田の辺に遊び、藤堂侯に過ぎる。門巷四隣、扉を闔つ。駕過ぎて後、營に直す。大生至る。月又佳なり。

「大駕遊須田辺」「今六半時過之御供揃二而。須崎筋<sup>江</sup>被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>成。」（『続徳川実紀』安政二年一月十八日）

○十九日癸未淡曇晚雨和歌発会来賓三十余名霽暄及夜

十九日癸未、淡曇、晚雨。和歌発会。来賓三十余名。霽暄、夜に及ぶ。

○廿日甲申雨有春意授読開堂学童数輩来池田劫助入門三生到与伊生对三国志從今日起業雨霏々不歇暖甚

廿日甲申、雨、春意有り。授読開堂す。学童数輩来る。池田劫助入門す。三生到る。伊生と対し、三国志今日より起業す。雨霏々として歇まず。暖甚し。

○廿一日乙酉雨未全霽午時趣石井弓場稽古始射数十箭射中金的二晚供飲及夜此日晚霽夜深又雨清行尼宿于東園

廿一日乙酉、雨未だ全くは霽れず。午時、石井の弓場に趣ぎ、稽古始む。射数、十箭。金的に射中ること二。晚、供飲され、夜に及ぶ。此の日、晚霽るも夜深けて又雨。清行尼、東園に宿す。

○廿二日丙戌好晴暖和杉本達来柏原信伊生入夜至

廿二日丙戌、好晴、暖かく、和やかなり。杉本達来る。柏原信・伊生夜に入り至る。

○廿三日丁亥曇直登宮受実紀俸券案文於勘定花田鉄太過昇平実紀局乳母及孝次来青生到

廿三日丁亥、曇。直にて宮に登る。実紀俸券案文を勘定花田鉄太より受く。昇平実紀局に過ぎる。乳母及び孝次来る。青生到る。

〔昇平〕昌平坂の別表記。

○廿四日戊子陰雨小山縫右来詩経発会起王風青大生佐野前田池田等来

廿四日戊子、陰雨。小山縫右来る。詩経発会。王風より起こす。青・大生、佐野、前田、池田等来る。

〔王風〕詩経国風の一つ。周の東都洛邑地方の詩。

○廿五日己丑雨霏微午後赴林氏詩延賦春雨酒飴供

廿五日己丑、雨霏微たり。午後林氏の詩延に赴き春雨を賦す。酒飴を供す。

〔霏微〕雨が細やかに降る様子。

○廿六日庚寅雨晴石橋三英至詩発会岩松舟橋関小野宮本庫之助金子酒向及青大生来雪江之弟恒蔵入門

廿六日庚寅、雨、晴。石橋三英至る。詩発会。岩松、舟橋、関、小野、宮本庫之助、金子、酒向及び青・大生来る。



雪江の弟恒蔵入門す。

○廿七日辛卯晴暖本覺来于東園談話移刻伊生来夜地震

廿七日辛卯、晴暖。本覺来り、東園において談話し刻を移す。伊生来る。夜地震ふ。

○廿八日壬辰雪登菅拝賀若例過実紀局青生到

廿八日壬辰、雪。菅に登り拝賀すること例の若し。実紀局に過ぎる。青生到る。

○廿九日癸巳陰曙雨大風送暖林祭酒有書談後鑑之事左伝発会僖二十七年学生数輩至時雨夜烈風本所火回向院係災

廿九日癸巳、陰。曙に雨。大風、暖を送る。林祭酒と後鑑の事の書談有り。左伝発会。僖二十七年。学生数輩至る。時に雨。夜烈風。本所火あり。回向院、災に係る。

〔後鑑〕室町時代十五代將軍の略歴。成島築山の編集。全三四七卷、付録二〇卷。嘉永六年に完成。

〔左伝〕『春秋左氏伝』。

〔回向院〕兩國にある浄土宗の寺院。

二月大

○朔日甲午陰冷無拜賀不朝頭取達明二日丹後殿通御詞云伊沢生至地微震

朔日甲午、陰、冷。拜賀無く朝せず。頭取達するに、明二日丹後殿、御詞を通ずと云ふ。伊沢生至る。地微かに震ふ。

○二日乙未晴冷登殿大溜丹後殿主水殿同座丹州達金五円拜賜如例鈴木宗休來話

二日乙未、晴、冷。殿に登り、大溜にて丹後殿、主水殿同座。丹州達し、金五円拜賜すること例の如し。鈴木宗休來り話す。

○三日丙申雨直營風冷雨急

三日丙申、雨。營に直す。風冷たし、雨急なり。

○四日丁酉霽佳風尚料峭鈴木妻來詩経會夜催伊沢生送別小宴青大生亦會酩酊達曙伊青宿

四日丁酉、霽、佳風。尚ほ料峭たり。鈴木妻來る。詩経會。夜、伊沢生送別の小宴を催す。青・大生も亦た會し酩酊し曙に達す。伊・青宿す。

〔料峭〕春の風の肌寒い様子。

〔酩酊〕モウトウ。深く酒に酔う様。

○五日戊戌陰午後如狩野氏呼勢店安兵談秋田氏之件晚歸

五日戊戌、陰。午後狩野氏に如く。勢店の安兵を呼び、秋田氏の件を談ず。晚歸る。

〔勢店安兵〕藏宿の伊勢屋の安兵衛か。

○六日己亥雨寒甚竟日霏霏夜大北風

六日己亥、雨。寒甚だし。竟日霏霏たり。夜、大北風。

○七日庚子雨未晴猶有風入夜寒威加嚴風雨未収

七日庚子、雨、未だ晴れず。猶ほ風有り。夜に入り寒威嚴を加ふ。風雨未だ収らず。

○八日辛丑好晴有風直営甲州達十一日御成御供願濟云過実紀局青生到

八日辛丑、好晴、風有り。営に直す。甲州達するに、十一日の御成御供願濟むと云ふ。実紀局に過ぎる。青生到る。

○九日壬寅霽提青大二生看東台桜花左氏講入夜雨来

九日壬寅、霽。青・大二生を提げて、東台の桜花を見る。左氏講。夜に入り雨来る。

○十日癸卯雨又曇頭取達明日辰牌前御供揃品川御遊云伊沢生来告十三日赴豆州

十日癸卯、雨又曇。頭取達するに、明日辰牌前、御供揃へ、品川御遊すと云ふ。伊沢生来り、十三日豆州に赴くと告ぐ。

○十一日甲辰雨灑曙起登宮与林南二氏陪大駕之行觀品川新築接岸砲堡大礮並列登殿山閣砲技近堡先発諸台連砲響震林丘東海寺賜午飰出野外台君放鷹獲雁一双到目黒爺店一憩又休近村店従渋谷麻布還宮既申牌直辞歸家は日閣老阿部久世内藤君等亦会於砲台出宮時少老本庄君御側小笠原若州従帰途本多君大久保駿州等陪焉竟日雨冷

十一日甲辰、雨灑ぐ。曙に起き、宮に登る。林・南二氏と大駕の行に陪す。品川に新たに築きし岸に接する砲堡に大礮の並列するを觀る。殿山に登り、砲技を閱す。近堡先に発し諸台連砲す。響、林丘を震はす。東海寺にて午飰を賜る。野外に出で、台君鷹を放ち雁一双を獲る。目黒の爺店に到りて、一憩し、又近村の店に休す。渋谷・麻布より宮に還る。既に申牌なり。直ちに辞し、家に歸る。是の日、閣老阿部・久世・内藤君等も亦た砲台に會す。宮を出づる時、少老本庄君御側なり。小笠原若州、帰途に従ひ、本多君・大久保駿州等陪す。竟日、雨冷たし。

〔閣老阿部〕阿部正弘。1843〜1845まで老中首座。開国の交渉・実務に携わる。

〔大駕〕天子を敬つて、その乗り物をいう語。ここでは、ここでは、將軍の乗り物。

〔殿山〕御殿山。家康の品川御殿が發祥。鷹狩りの休息地として使われる。

〔台君〕將軍。徳川家定。

〔目黒爺店〕目黒爺々が茶屋。当時の様子は広重『名所江戸百景』などに見られる。

〔東海寺〕品川にある臨濟宗の寺院。

〔少老〕若年寄の異称。

○十二日乙巳雨霏登殿謁甲州備州宮内少輔述昨日之謝地震又雷夜半晴月

十二日乙巳、雨霏。殿に登り、甲州、備州、宮内少輔に謁し、昨日の謝を述ぶ。地震ひ又雷す。夜半、晴月。

〔宮内少輔〕松平忠恵（ただしげ）。若年寄。1784～1862

○十三日丙午晴直宮宮田文吉来午後風起雨灑迅雷数震晚霽月明

十三日丙午、晴。宮に直す。宮田文吉来る。午後風起こり雨灑ぐ。迅雷しばしば数震ふ。晩に霽る。月明らかなり。

○十四日丁未晴詩経会阿復為学女工入郷田氏社

十四日丁未、晴。詩経会。阿復、女工を学ぶ為、郷田氏の社に入る。

〔女工〕裁縫。『柳橋新誌』では、柳北「女功」と表記している。

○十五日戊申晴登宮拝賀如例家孥有探花行

十五日戊申、晴。宮に登る。拝賀、例の如し。家孥、探花行有り。

○十六日己酉霽和余誕日也命飴肴詩会晴潭等及太田盛仙台書生其余十余名来夜小飲青大生宿夜有雨

十六日己酉、霽和。余の誕日なり。飴肴を命ず。詩会。晴潭等及び太田盛、仙台書生、其の十余名来る。夜、小飲。青・大生宿す。夜、雨有り。

○十七日庚戌雨梧蔭翁来話

十七日庚戌、雨。梧蔭翁来り話す。

○十八日辛亥晴寒直営無事宮田文吉携予及王父君実紀俸銀昨年与今春併銀廿一餅余来青生到携乃姉

十八日辛亥、晴、寒。営に直す。事無し。宮田文吉、予及び王父君の実紀俸銀、昨年と今春と併せて銀廿一餅余を携へ来る。青生到る。乃姉を携ふ。

○十九日壬子霽風茲日細君始帰寧于浜街王父君北堂阿復等尼皆往青大生来池田生来芟園中根豊八完戸鹿兒至青生宿

十九日壬子、霽、風。茲の日、細君始めて浜街に帰寧す。王父君・北堂・阿復・等尼皆往く。青・大生来る。池田生来る。芟園中根豊八・完戸・鹿兒至る。青生宿す。

〔帰寧〕 婦女が里帰りして父母の安否を問うこと。

〔北堂〕 家の北にある建物。古代中国で主婦の居所。転じて母の称。他人の母の尊称。

○廿日癸丑晴登殿次講孟子戴不勝公孫丑兩章

廿日癸丑、晴。殿に登る。『孟子』戴不勝・公孫丑の兩章を講ずるに次す。

○廿一日甲寅嫩霽或曇提阿復及青生其姉兩婢從泉橋放舟遊墨水到綾瀨塘而帰又上舟舂平岩亭酣醉辞乘船而返已二更雷震雨灑此日細井安次到（春俸今日玉落）

廿一日甲寅、嫩霽、或ひは曇。阿復及び青生、其の姉・兩婢を提げ、泉橋より舟を放ち、墨水に遊ぶ。綾瀨塘に到りて帰る。又舟を上りて平岩亭に舂す。酣醉して船に乗りて返る。已に二更、雷震ひ雨灑ぐ。此の日、細井安次到る。（春俸今日、玉落ち）

〔泉橋〕和泉橋。神田川昌平橋下。

〔平岩亭〕葛西太郎の名がある向島の鯉料理店。『江戸買物独案内』『酒飯手引草』等に載る。

○廿二日乙卯晴未牌大烈風一陣如廩賈許受俸金過北角石井二氏

廿二日乙卯、晴。未牌、大烈風一陣あり。廩賈の許に如き俸金を受く。北角・石井二氏に過る。

〔廩賈〕札差の伊勢屋。

○廿三日丙辰晴和煖甚直宮至実紀局辻龍助來談編紀之事夜寢到曙

廿三日丙辰、晴和。煖甚し。宮に直し、実紀局に至る。辻龍助来り、編紀の事を談ず。夜寝、曙に到る。

○廿四日丁巳晴詩経会夜京橋火

廿四日丁巳、晴。詩経会。夜、京橋に火あり。

○廿五日戊午晴又曇遣渡生于狩探原許晴昨夜係災也風勁

廿五日戊午、晴、又曇。渡生を狩探原の許に遣し、昨夜の係災を晴とちふなり。風勁し。

〔狩探原〕狩野探原。鍛冶橋の狩野家を嗣いだ。慶応二年没、三八歳。

〔晴〕ゲン。災害などで生きて不幸にあつた人を訪れる。死者をとむらうときの甲と区別。

○廿六日己未晴風狩野董叔提諸孥来饗之飯田易義至(青木左京之臣)年百有十四体康健長鬚以簪束髮能揮毫写箋及扇数十枚克飲食衆皆愕入夜宴罷青生宿狩野阿幸宿

廿六日己未、晴、風。狩野董叔、諸孥を提げ来り、之を饗す。飯田易義(青木左京の臣)至る。年百有十四。体康健、長鬚。簪を以て束髮し、能く揮毫す。箋及び扇数十枚を写す。克く飲食し、衆皆愕く。夜に入り、宴罷む。青生宿す。狩野阿幸宿す。

○廿七日庚申霽風暖甚頃日火警頻々午後雨小灑。



廿七日庚申、霽、風。暖甚し。頃日火警頻々たり。午後雨小しく灑ぐ。

○廿八日辛酉陰直發殿奉賀例如松岡肇至阿幸歸浜街夜飲東園

廿八日辛酉、陰。直す。殿を發し奉賀例の如し。松岡肇至る。阿幸、浜街に歸る。夜、東園に飲む。  
〔發殿〕〔登殿〕〔殿に登る〕の誤記か。

○廿九日壬戌晴縮帛一松魚十以賀佐野阿梅嫁于大久保氏左氏会

廿九日壬戌、晴。縮帛一、松魚十、以て佐野阿梅の大久保氏に嫁するを賀す。左氏会。

○晦日癸亥霽風隆豊翁及太田盛全話

晦日癸亥、霽、風。隆豊翁及び太田盛到り話す。

### 三月小

○朔日甲子曇雨微洒如実紀局風砂満道本月三日貞操夫人十七周忌以其上已故以明日為祭日蓋今夕逮夜也供具祭之  
此世夜四更火発於小網街風烈火熾愕起赴狩野氏雖火道先斜接近甚因束什器訪秋月亦同矣衆告泉橋亦殆乃速返家未  
及藏理然闔家不眠有小雨

朔日甲子、曇、雨微に洒ぐ。実紀局に如く。風砂、道に満つ。本月三日は貞操夫人の十七周忌なり。其の上巳の故を以て、明日を以て祭日と為す。蓋し今夕は建夜なり。供具して之を祭る。此の夜四更、火、小網街に発し、風烈しく火熾さかんなり。愕き起きて狩野氏に赴く。火道先づ斜すと雖も接近甚し。因て什器を束ぬ。秋月を訪ふも亦た同じ。衆、泉橋も亦た殆しと告ぐ。乃ち速やかに家に返る。未だ蔵理に及ばず、然して闔家眠らず。小雨有り。「上巳」五節句の一つ陰曆三月最初の巳の日。のち三月三日に該当された。宮中では曲水の宴を催し、民間では女兒の祝日として、ひな祭りをするようになった。

「建夜」葬儀の行われる前夜。また忌日の前夜。

「小網街」現、日本橋小網町。

「闔家」一家残らず。

○二日乙丑晴風曙火弥烈将再趁狩野氏以火漸近於邸不果与青木生到新橋而返使京生提飯菜訪狩野氏幸免災云秋月同矣此火江戸橋辺市街数区馬喰街若松久松街等尽燼而浅草郭門亦係災遂超川而焚蔵前茅街辺而滅時已巳牌後也王父君及細君阿復拜本法寺貞操夫人墓祭畢矣茲日暴煖一单衣而可矣伊勢四郎舎係災(聞此災也両国辺細井百助之邸炎硝壺発飛落本所石原云)

二日乙丑、晴、風。曙に火いよよ弥烈し。将に再び狩野氏に趁く。火の漸く邸に近づくを以て果さず。青木生と新橋に到りて返る。京生をして飯菜を提げしめ、狩野氏を訪はしむ。幸にして災を免がると云ふ。秋月も同じ。此の火、江戸橋辺の市街数区、馬喰街、若松久松街等尽く燼して、浅草郭門も亦た災に係る。遂に川を超て蔵前・

茅街辺を焚きて滅す。時已に巳牌後なり。王父君及び細君・阿復、本法寺の貞操夫人の墓を押し祭り畢んぬ。茲の日、暴煖にして一単衣にて可なり。伊勢四郎の舎、災に係る。(聞く、此の災や、両国辺の細井百助の邸の炎硝壺、発し飛びて本所石原に落つと云ふ。)

〔尽燼〕『武江年表』に「同朔日夜子下刻、小網町一丁目と堀江町四丁目との地尻境より出火、坤の風熾にて小網町若松町・久松町馬喰町に至り茅町通東側一円、同所藤堂候にて朝五半時過鎮火。浅草御門渡り櫓焼失。」の記事を収める。

○三日丙寅或雨登殿拝賀如恒例夜賜白酒及肴于奴婢午後雨不歇晚霏々

三日丙寅、或は雨。殿に登り拝賀、恒例の如し。夜、白酒及び肴を奴婢に賜ふ。午後、雨歇まず。晚、霏々たり。

○四日丁卯雨漸収詩経会

四日丁卯、雨漸く収まる。詩経会。

○五日戊辰雨杉恒篠来秋月到告本月仲浣将赴忍郷京生如杉本氏助其無价也

五日戊辰、雨。杉恒篠来る。秋月到り、本月仲浣、将に忍郷に赴かんとすと告ぐ。京生は杉本氏に如く。其の無价を助くるなり。

〔仲浣〕中旬。

〔忍〕おし。現、埼玉県行田市。

〔价〕召使。

○六日己巳雨歇遣嘉平於伊勢舍唁其遭災贈酒五量与青大二生遊王子村值田府公駕馳奔避之飲海老亭詣稻荷権現兩祠訪文三翁家日暮歸邸

六日己巳、雨歇む。嘉平を伊勢舍に遣し、其の災に遭ふを唁ふ。酒五量を贈る。青・大二生と王子村に遊ぶ。田府公の駕の馳奔するに値ひ、之を避けて海老亭に飲む。稻荷・権現兩祠に詣で、文三翁の家を訪ぬ。日暮、邸に歸る。

〔海老亭〕王子の料亭海老屋。寛政十一年(1799)開業。

〔稻荷・権現〕北区王子にある、王子稻荷神社。創祀年代不詳。康平年中、源頼義、奥州追討のみぎり、深く当社を信仰し、関東稻荷総司と崇めた神社。元亨二年(1322年)領主豊島氏が紀州熊野神を勧請し、若一王子宮、王子権現と称された。

○七日庚午雨霏々牧野佐州来

七日庚午、雨霏々たり。牧野佐州来る。

○八日辛未晴風直営御膳番松平健之助有私談過林氏祭酒不在家則謁学齋子聞一昨日六日夜乾府側之金庫有賊掠金

三千余百（或曰三千五百、或曰三千六百）兩云。飯田咸三到

八日辛未、晴、風。營に直す。御膳番松平健之助、私談有り。林氏に過ぎる。祭酒、家に在らず。則ち学齋子に謁す。一昨日六日夜、乾府側の金庫に賊有り。金三千（或は三千五百と曰ひ、或は三千六百と曰ふ）兩を掠むと云ふ。飯田咸三到る。

〔乾府〕江戸城の乾二重櫓。

○九日壬申晴午後雨雷兒童終日講読左氏会

九日壬申、晴、午後雨、雷。兒童、終日講読す。左氏会。

○十日癸酉霽鈴宗休来

十日癸酉、霽。鈴宗休来る。

○十一日甲戌陰与青生拝肅公之墓看金龍山中百花園而返有風此夜恒篋子来対読綱目

十一日甲戌、陰。青生と肅公の墓を拝す。金龍山中の百花園を看て返る。風有り。此の夜、恒篋子来り、綱目を対読す。

〔綱目〕『資治通鑑綱目』。

○十二日乙亥淡霽北堂細君阿復及狩野氏属詣金龍山狩叔母阿幸等宿有雨

十二日乙亥、淡霽。北堂・細君・阿復、及び狩野氏の属、金龍山に詣づ。狩叔母・阿幸等、宿す。雨有り。

○十三日丙子陰直宮過実紀局午後雨叔母帰于浜街綱目対読

十三日丙子、陰。宮に直し、実紀局に過る。午後、雨。叔母、浜街に帰る。綱目、対読す。

○十四日丁丑雨霏或晴或曇詩経会渡辺三十来謁

十四日丁丑、雨、霏たり。或は晴れ、或は曇る。詩経会。渡辺三十、来り謁す。

○十五日戊寅晴風登宮拝賀如例謁林祭酒渡辺三十又至

十五日戊寅、晴、風あり。宮に登り、拝賀すること例の如し。林祭酒に謁す。渡辺三十、又至る。

○十六日己卯好晴加暖小集如例弁婢請帰省于房州但五日云

十六日己卯、好晴、暖を加ふ。小集、例の如し。弁婢、房州に帰省するを請ふ、但し五日と云ふ。

○十七日庚辰陰午後如実紀局雨霏霏綱目対読

十七日庚辰、陰。午後、実紀局に如く。雨、霏々たり。綱目、対読す。

○十八日辛巳曇直宮謁祭酒筒井万輔来雨灑

十八日辛巳、曇。宮に直し、祭酒に謁す。筒井万輔来る。雨、灑ぐ。

○十九日壬午雨午晴

十九日壬午、雨、午晴る。

○二十日癸未好霽登殿次講孟子起世衰道微之節全章訖左氏会昨日之換日也

二十日癸未。好霽。殿に登る。孟子を講ずるに次す。世衰道微の節より起こりて、全章訖<sup>をほ</sup>る。左氏云。(昨日の換日なり。)

○二十一日甲申晴学童来習竟日柏原氏来

二十一日甲申、晴。学童の来り習ふこと竟日なり。柏原氏来る。

○二十二日乙酉霽少痾

二十二日乙酉、霽。少しく痾たり。

○二十三日丙戌晴大風直宮過実紀局斯日出免鞆啓于遠但州退宮後当直御史達鞆願相濟之旨夜有雨。

二十三日丙戌、晴。大風なり。宮に直す。実紀局に過る。斯の日、免鞆の啓を遠但州に出す。退宮の後、当直の御史より鞆願の相濟むの旨を達せらる。夜、雨有り。

「免鞆啓」鞆は足袋。啓は文体の一種で、公文書・上申書のこと。江戸城中で足袋を着用することについて、幕府に伺いをたてる必要があった。

○二十四日丁亥晴薄暑詩経会夜恒篠来対読

二十四日丁亥、晴、薄暑なり。詩経会。夜、恒篠来り、対読す。

○二十五日戊子陰如林氏詩筵賦田園十二絶句謁祭酒

二十五日戊子、陰。林氏の詩筵に如き、田園十二絶句を賦す。祭酒に謁す。

「田園十二絶句」『寒檠小稿』に「季春念五林氏小集席上各裁晚春田園雜興十二首次原韻」と題する七言絶句十二首を収める。

○二十六日己丑晴塾詩会

二十六日己丑、晴。塾の詩会。



○二十七日庚寅陰風如明樂八五家習馬恒篠来対読昨今如夏

二十七日庚寅、陰、風あり。明樂八五あけちの家に如き、馬を習ふ。恒篠来り、対読す。昨今、夏の如し。  
〔明樂八五〕幕臣、明樂八五郎。

○二十八日辛卯陰大烈風直營過実紀局午後大風歇熱甚有雨

二十八日辛卯、陰、大烈風あり。營に直す。実紀局に過る。午後、大風歇む。熱さ甚だし。雨有り。

○二十九日壬辰陰見性常性経性三尼及狩春川来和歌筵新晴成実尼董玉又到夜小飲左氏会

二十九日壬辰、陰。見性・常性・経性の三尼、及び狩春川来る。和歌の筵なり。新たに晴る。成実尼・董玉、又到る。夜、小しく飲む。左氏会。

#### 四月小

○朔日癸巳晴登殿拝賀如例松岡爺到始聞杜鵑声

朔日癸巳、晴。殿に登り、拝賀すること例の如し。松岡爺到る。始めて杜鵑の声を聞く。

○二日甲午晴如明樂氏訪柏原氏不逢

二日甲午、晴。明楽氏に如く。柏原氏を訪ふも逢はず。

○三日乙未晴直営過実局帰邸後雨灑

三日乙未、晴。営に直す。実局に過りて、邸に帰る。後、雨灑ぐ。

○四日丙申雨歇柏原氏来長尾叔来詩経会杉恒篠来対読到五更後寐

四日丙申、雨歇む。柏原氏来る。長尾叔来る。詩経会。杉恒篠来る。対読して五更に到る。後、寐ぬ。

○五日丁酉晴北堂細君如狩野氏細君宿矣竹内留助来謁綱目対読茲日頭取有達近日表儒員侍講予及林栄可司之云

五日丁酉、晴。北堂・細君、狩野氏に如く。細君宿す。竹内留助来り謁す。綱目対読す。茲の日、頭取より達すること有り。近日、表儒員、侍講す。予及び林栄、之を司るべしと云ふ。

○六日戊戌晴如柏原氏請借拾円金蓋為小南氏戸矢権八来教授一夜管夜雨

六日戊戌、晴。柏原氏に如き、請ふて拾円金を借る。蓋し小南氏の為なり。戸矢権八来りて、一夜管を教授す。夜、雨。

「一夜管」一節切。管楽器、尺八の類。

○七日己亥、霏雨なり。宮に朝す。林栄と談有り。小南氏に貨十枚を予ふ。細君、浜街より歸る。北角氏来る。

七日己亥、霏雨なり。宮に朝す。林栄と談有り。小南氏に貨十枚を予ふ。細君、浜街より歸る。北角氏来る。

○八日庚子晴直宮与林栄議外儒員講儀謁祭酒過良齋翁有話

八日庚子、晴。宮に直す。林栄と外儒員の講儀を議す。祭酒に謁す。良齋翁に過り、話有り。

○九日辛丑晴暑已催左氏会此日春川及長尾叔及山田叔母伊熊叔母来各携兒

九日辛丑、晴、暑さ已に催す。左氏会。此の日、春川及び長尾叔及び山田叔母・伊熊叔母来る。各々兒を携ふ。

○十日壬寅霽暑甚登殿有外儒員進講之談夜晴潭歸于忍来話月明

十日壬寅、霽、暑さ甚だし。殿に登る。外儒員の進講の談有り。夜、晴潭、忍より歸り来りて話す。月明らかなり。《余説》底本では「辛丑」を訂正して「壬寅」とする。この日に前日と同じ干支を書いてから四月二十九日まで連続して干支のずれを訂正している。

○十一日癸卯晴夙朝宮外儒員林凶書助古賀謹一侍講余及林祭酒小林氏進退之林凶（講大学三綱領御好論語使民敬忠）古賀（孟子易其田疇論語子游為武城宰）蓋御座間閣老参政御側皆列坐午時訖是日馬場九七入塾宇都宮周格入門両生高崎藩也

十一日癸卯、晴。夙に營に朝す。外儒員林図書助・古賀謹一、侍講す。余及び林祭酒・小林氏、之に進退す。林図(大學三綱領、御好にて論語使民敬忠を講ず。)古賀(孟子易其田疇、論語子游為武城宰)。蓋し御座間にて、閣老・参政・御側皆列坐す。午時訖る。是日、馬場九七入塾す。宇都宮周格入門す。両生は高崎藩なり。

○十二日甲辰有雨霏霏

十二日甲辰、雨の霏霏たる有り。

○十三日乙巳雨直營午晴又雨

十三日乙巳、雨。營に直す。午晴、又雨。

○十四日丙午陰頓晴詩經会本阿弥正佐至談刀事秋忠助来

十四日丙午、陰、頓に晴る。詩經会。本阿弥正佐至り、刀事を談ず。秋忠助来る。

○十五日丁未晴登營拝賀如例猿樂催于奥舞台蓋上誕辰也賜觀賜酒餅薄暮退出

十五日丁未、晴。營に登る。拝賀、例の如し。猿樂を奥舞台に催す。蓋し、上の誕辰なり。觀を賜り、酒餅を賜る。薄暮、退出す。

《余説》『続徳川実紀』に「就御誕辰。群臣<sub>江</sub>、賜餅并酒。奥、御能有<sub>レ</sub>之。」の記事を収める。

○十六日戊申晴詩小集晴潭雪江四五名来

十六日戊申、晴。詩小集。晴潭・雪江、四五名来る。

《余説》『寒檠小稿』に「明妃出塞図 四月既望小集」の詩を収める。

○十七日己酉霽如明楽氏始入所多一門習馬夜戸矢来吹管月明

十七日己酉、霽。明楽氏に如く。始めて一門の馬を習ふもの多き所に入る。夜、戸矢来り管を吹く。月明らかなり。

〔明楽氏〕明楽八五郎。柳北の馬の師。

〔戸矢〕戸矢権八。柳北の一節切の師。

○十八日庚戌晴暑甚直菅田辺脩来話

十八日庚戌、晴。暑さ甚だし。菅に直す。田辺脩、来り話す。

○十九日辛亥晴左氏会聞献後鑑附録于朝

十九日辛亥、晴。左氏会。『後鑑附録』を朝に献ずるを聞く。

〔後鑑附録〕『後鑑』は室町幕府に関する記録。江戸幕府の修史事業の一環として、奥儒者で柳北の父成島良讓(筑山)が中心に編集した歴史書。

○廿日壬子雨登殿次講孟（匡章曰全章）

廿日壬子、雨。殿に登る。孟を講ずるに次す（「匡章曰」全章）。

「匡章曰」「孟子」滕文公下の部分。

○廿一日癸丑晴林祭酒有書与一允拜肅公墳

廿一日癸丑、晴。林祭酒、書有り。一允と肅公が墳を拜す。

○廿二日甲寅晴暑催談明日進講之儀依来月天下御一統支干相当出賀文伺于頭取撰州以達御用掛衆

廿二日甲寅、晴。暑、催す。明日、進講の儀を談ず。来月天下御一統の支干に相当するに依て、賀文を出す。頭取撰州に伺ひ、以て御用掛衆に達す。

「天下御一統支干」安政二年（一八五五）五月十日、十一日の記述から五月十一日をさす。この日の干支は、乙卯の年、癸未の月、壬申の日。元和元年（一六一五）五月二十六日が同一の干支にあたる。大阪夏の陣で豊臣家が滅びたのは同年五月八日である。

「賀文」安政二年五月十日「賀文」、十一日「賀箋」と同じか。

「撰州」御小納戸頭取、竹田斯綏（撰津守）。

○廿三日乙卯霽登殿外儒杉原平助佐藤捨藏進講如十一日捨藏（尚書堯典自曰若稽古至於變時雍御好 中庸 至誠之道可以前知章）平助（易繫辭下伝危者安其位至繫于苞桑 御好 論語 譬如為山章）午時過寸刻而畢過実紀局  
廿三日乙卯、霽。殿に登る。外儒杉原平助・佐藤捨藏の進講、十一日の如し。捨藏（『尚書』「堯典」「曰若稽古」より「於變時雍」に至る。御好、『中庸』「至誠之道、可以前知」の章）平助（『易』「繫辭下伝」「危者安其位」、「繫于苞桑」に至る。御好、『論語』「譬如為山」の章）。午時、寸刻を過ぎてし畢んぬ。実紀局に過ぎる。  
「杉原平助」杉原心斎。名は直養。字は浩然。通称は平助。別号に緑静堂。江戸時代後期の儒者。江戸の人。昌平覺で佐藤一斎、安積良斎に学ぶ。

「佐藤捨藏」佐藤一斎。その日記『腹曆』同日の記事に「御前講 杉・佐」とある。

○廿四日内辰雨小山縫右来遣実紀俸券于宮田氏詩経会少冷

廿四日内辰、雨。小山縫右来る。実紀俸券を宮田氏に遣す。詩経会。少しく冷し。

○廿五日丁巳晴登殿外儒講義安積祐助（中庸 子路問強全章 御好 詩経 鴟鴞篇第二章）木村金平（論語 子曰道之以政章 御好 書経 無逸篇 自始至無問知）如例今日而畢矣退宮過林氏小集詠二律

廿五日丁巳、晴。殿に登る。外儒講義、安積祐助（『中庸』「子路問強」全章。御好、『詩経』鴟鴞篇第二章）木村金平（『論語』「子曰道之以政」の章。御好、『書経』「無逸篇」始めより「無問知」に至る）。例の如く今日にして畢んぬ。宮を退く。林氏小集に過ぎり、二律を詠ず。

「安積祐助」安積良斎。

《余説》『寒檠小稿』に「觀海 四月念五日林氏小集」を収める。本文に「二律」とあるが、一首のみ。

○廿六日戊午霽家族如堀切村看菖花午後微雷雨綱目対読

廿六日戊午、霽。家族にて堀切村に如き、菖花を看る。午後、微かに雷雨。綱目対読す。

「堀切村」安政三年『隅田川向島絵図』に「堀切村。花菖蒲の名所なり」とある。現在の堀切菖蒲園の対岸。墨田区墨田。

○廿七日己未晴台駕遊浅草筋閉門窓招実局吏長萩原文左達後鑑之事戸矢来

廿七日己未、晴。台駕、浅草筋に遊ぶ。門窓を閉づ。実局吏長萩原文左を招き、後鑑の事を達す。戸矢来る。

○廿八日庚申晴登殿不出拝賀之席過実紀局良斎翁来訪贈其文略四卷予不在不得逢綱目対読

廿八日庚申、晴。殿に登る。拝賀の席に出でず。実紀局に過る。良斎翁来訪し、其の文略四卷を贈らる。予、不在にして逢ひ得ず。綱目対読す。

「文略四卷」『良斎文略』は、天保二年刊、三卷三冊、安積良斎の文集だが、ここは「四卷」とあり、时期的にも、『良斎詩略』一卷一冊と併せて刊行された『良斎文略続』嘉永六年刊、三卷三冊か。



○廿九日辛酉霽完生来左氏会小川健豎到

廿九日辛酉、霽。完生来る。左氏会。小川健豎到る。

### 五月大

○朔壬戌霽登殿拝賀如例過良翁飯田咸来

朔壬戌、霽。殿に登る。拝賀、例の如し。良翁に過る。飯田咸来る。

○二日癸亥晴青生鹿兒至夜有雨

二日癸亥、晴。青生・鹿兒至る。夜、雨有り。

○三日甲子陰冷直営過実紀局

三日甲子、陰、冷し。営に直す。実紀局に過ぎる。

○四日乙丑晴詩経会

四日乙丑、晴。詩経会。

○五日丙寅晴登宮拜賀如恒儀過佐野叔石野伝兵二子巳ノ吉由次入門青大生到小飲二生宿

五日丙寅、晴。宮に登る。拜賀、恒の儀の如し。佐野叔に過ぎる。石野伝兵二子、巳ノ吉・由次入門す。青・大生到る。小飲す。二生宿す。

○六日丁卯晴有小雨田辺脩董叔戸矢及一橋府宮尼槇浦来微霰

六日丁卯、晴、小雨有り。田辺脩・董叔・戸矢及び一橋府宮尼、槇浦来る。微かに霰す。

○七日戊辰晴如明樂氏秋月来夜雨

七日戊辰、晴。明樂氏に如く。秋月来る。夜、雨。

○八日己巳雨直營或晴或陰

八日己巳、雨。營に直す。或は晴、或は陰。

○九日庚午晴陰相半左氏会小野梧蔭翁没歎可言哉訪小林北角氏弔小野家逢竹田道庵

九日庚午、晴陰相半ばす。左氏会。小野梧蔭翁没す。歎、言ふべけんや。小林・北角氏を訪ぬ。小野家を弔す。竹田道庵に逢ふ。

○十日辛未、広次、故郷に帰る。其の兄、渡辺良琢来り謁す。此の日、陰雨。田辺脩来り、余が賀文を写す。頭殿雅楽賜饗云

十日辛未。広次、故郷に帰る。其の兄、渡辺良琢来り謁す。此の日、陰雨。田辺脩来り、余が賀文を写す。頭取達するに、「明十一日、天下御一統と支干相当の賀儀なり。外殿に雅楽有り。饗を賜ふ」と云ふ。

〔賀文〕四月二十二日の項「賀文」。

《余説》『寒檠小稿』に「渡辺生将帰省」の詩を収める。

○十一日壬申陰雨登營賀儀太殿猷賀箋一及訓点一達諸竹撰津守奉其副五于中書各君外殿猿樂賜肴酒及菓亦尽美此日猷肴蓋一役一人出泊方省晚退營星野録三達実紀俸銀来營中始面川村对州崎陽鎮台也

十一日壬申、陰雨。營に登る。賀儀、太はだ殿なり。賀箋一、及び訓点一を猷ず。諸を竹撰津守に達す。其の副五を中書各君に奉る。外殿に猿樂あり。肴酒及び菓を賜ふ。亦た尽く美なり。此の日、肴を猷ずるは、蓋し一役一人。泊方省を出で、晩に營を退く。星野録三、実紀俸銀の来るを達す。營中、始めて川村对州に面す。崎陽の鎮台なり。

〔賀箋一及訓点一〕賀文と、その注釈か。

〔副五〕副本五部。

〔崎陽鎮台〕長崎奉行。

○十二日癸酉陰学童習読竟日遣嘉兵于小野氏弔其葬也松岡翁至託児老之助事

十二日癸酉。陰。学童の習読すること竟日。嘉兵を小野氏に遣し、其の葬を弔しむるなり。松岡翁至りて、児老之助の事を託す。

○十三日甲戌陰直営過実紀局狩叔母来晴細君之病也

十三日甲戌。陰。営に直し、実紀局に過る。狩叔母来りて、細君の病を晴ふなり。

〔直営〕安政二年の柳北は、三日・八日・十三日・十八日・二十三日・二十八日が、当直を勤める日であった。

○十四日乙亥雨欲来或晴入夜雨詩経会本阿弥来

十四日乙亥、雨来らんと欲す。或は晴。夜に入り雨ふる。詩経会。本阿弥来る。

〔詩経会〕この年の柳北は、四日・十四日・二十四日が「詩経会」の日であった。

○十五日丙子晴登殿拝賀如常炎蒸始熾夜有雨

十五日丙子、晴。殿に登り、拝賀すること常の如し。炎蒸、始めて熾んなり。夜、雨有り。

〔登殿拝賀如常〕奥儒者見習いの仕事として、毎月、月次式日(朔日・十五日・二十八日)登城拝賀するのが慣例であった。

○十六日丁丑晴炎威如小集七八輩至雷鳴小雨夜月明此日御史問嘉定出否林栄有書通馬揃拝見得許之事

十六日丁丑、晴。炎威加ふ。小集あり。七八輩至る。雷鳴あり。小雨ふる。夜、月明らかなり。此の日、御史、嘉定の出否を問ふ。林栄より書ありて、馬揃拝見、許しを得るの事を通ずと。

〔小集〕毎月、原則十六日あるいは二十一日に、成島邸で催されていた定例の詩会。安政二年一月二十六日に岩松・舟橋晴潭・小野・宮本・金子蓑香・青・大生らの参集により発会した。

〔嘉定〕城中で行われる「嘉定(祥)の儀」。嘉祥・嘉通とも。旧暦六月十六日に、疫病を除くために、餅や菓子等を神に供え、そののちこれを食した行事。幕府では、この日、大名・旗本が登城し、饅頭・羊羹など十六種の菓子を賜う式が行われた。

〔馬揃〕軍馬の訓練。

〔通得許之事〕五月十八日・十九日・二十一日三日間の「馬揃」の実施については、二月中にすでに各番頭あてに通達が出されおり、ここでは、柳北が事前に提出していた「馬揃拝見」の願書が受理され、十九日の観覧が許されたということ。

○十七日戊寅曇登營謝馬揃拝見之事于田沢兵庫頭蓋初日十八二度目十九三度目廿一予蓋出十九日也有雨完生来託  
仙台士東海林儀三入塾事夜儀三及北畠武七来謁戸矢来

十七日戊寅、曇。營に登り、馬揃拝見の事を田沢兵庫頭に謝す。蓋し、初日十八、二度目十九、三度目廿一なり。予、蓋し、十九日に出るなり。雨有り。完生来りて、仙台士東海林儀三入塾の事を託す。夜、儀三及び北畠武七来り謁す。

戸矢来る。

〔初日十八二度目十九三度目廿一〕五月十八、十九、二十一日、江戸城吹上苑にて、上覧馬揃あり〔『巷街贅説』〕。

○十八日己卯雨直営諸番士騎馬揃於吹上苑上覧

十八日己卯、雨。営に直す。諸番士、吹上苑に騎馬揃す。上覧あり。

〔吹上苑〕江戸城の内苑。

〔番士〕番衆、組衆とも。城郭・御殿などの守衛に当たった武士。

○十九日庚辰雨蚤起登営随陪駕而至吹上苑觀諸隊士鎧騎鹵簿金彩燦目風雨不歇柳沢修理亮達明日丹州御通詞此日坂上玄伸円阿弥翁逝矣聞近日佐々木近江守亦卒

十九日庚辰、雨。蚤起す。営に登る。駕に随陪して、吹上苑に至り、諸隊士鎧騎の鹵簿ひぼを觀る。金彩、目を燦す。風雨歇まず。柳沢修理亮、明日、丹州御通詞あるを達す。此の日、坂上玄伸・円阿弥翁、逝く。近日、佐々木近江守も亦た卒すと聞く。

〔鎧騎〕騎馬武者。

〔鹵簿〕行列。

○廿日辛巳雨登營本郷丹州御通詞賜時服一襲蓋去十一日所献之文之賞也次講如例（謂之賊止）帰途謝夏日本郷蹠

川両平岡家

廿日辛巳、雨。營に登る。本郷丹州より御通詞ありて、時服一襲を賜はる。蓋し去る十一日献ずる所の文の賞なり。次講、例の如し。(これを賊と謂ふにて止む) 帰途、夏目・本郷・蜷川・両平岡家に謝す。

「十一日所献之文」五月十一日の記事にみえる「賀箋一、及び訓点一」のことか。

「賊止」「論語」 堯曰篇の記事をさす。

「両平岡」「平岡丹州」と「平岡石州」。

○廿一日壬午晴未全聞馬揃今日而尽終菅幾五父有書報幾五三月廿一日没于大坂一愴然近日聞人物故輻湊微邪招阿瞽一針

廿一日壬午、晴れ未だ全からず。馬揃、今日にして尽く終ると聞く。菅幾五の父、書有りて、幾五、三月廿一日に、大坂に没するを報ず。一たび愴然たり。近日、人の物故、輻湊するを聞く。微邪にて、阿瞽を招きて一針す。

○廿二日癸未雨霽炎蒸甚完戸生秋忠介来

廿二日癸未、雨、霽る。炎蒸甚し。完戸生・秋忠介来る。

○廿三日甲申晴炎熱大倍昨有風直營過実局青木提姉来

廿三日甲申、晴。炎熱、大に昨に倍す。風有り。營に直し実局に過ぎる。青木、姉を提げて来る。

○廿四日乙酉雨冷詩経会秦風終学童終日稽古

廿四日乙酉、雨、冷し。詩経会。秦風終る。学童、終日稽古す。

「秦風」「詩経」「国風」のひとつ。

○廿五日丙戌晴赴林氏少集

廿五日丙戌、晴。林氏の少集に赴く。

「林氏の少集」林大学頭が主催する詩会。原則として、毎月二十五日に開かれていた。柳北は安政元年十月二十五日に初めて出席した。「この詩会は、所謂『官学派の詩人』の拠点として、当時の名士が出席したと思われる」という（乾照夫『成島柳北』）。

○廿六日丁亥晴塾詩会

廿六日丁亥、晴。塾の詩会あり。

○廿七日戊子霽高山良之助来謁西光菴尼主及尼婆来于東園夜戸矢権八来

廿七日戊子、霽。高山良之助、来謁す。西光菴の尼主、及び尼婆、東園に来る。夜、戸矢権八来る。

「西光菴」文化十二年（一八一五）開基とされる、浄土宗の尼寺。嘉永四年（一八五二）刊『大久保戸山高田辺之図』



にその名がみえる。尾張徳川家と縁が深く、第十四代および第十七代藩主・徳川慶勝と十六代藩主・徳川義宣の墓がある。東京都新宿区新宿。

「尼主」 第二代尼主・進蓮社静誉寂窓清吟法尼か。

○廿八日巳丑曇従昨停飲攪胸登營直日也帰家顛転竟日不成一事峰観智院僧日慧来

廿八日巳丑、曇。昨より停飲す。攪胸なり。營に登る。直日なり。家に帰り顛転すること竟日にして、一事も成さず。峰観智院の僧日慧来る。

「峰観智院僧日慧」日慧（一八〇七〜一八六八）は、下総日蓮峯妙興寺第四十九世のこと。法諱・竜寛。字は観智院。著作に『仮名訓読要品』（二八六二）がある。

○廿九日庚寅雨如蔵店許受夏俸（但昨日玉墜也）左氏会

廿九日庚寅、雨。蔵店の許に如き、夏俸を受く（但し、昨日、玉墜なり）。左氏会。

「玉墜」「切米の玉落」のこと。蔵宿で幕府から支給される御切米を受け取る順番を決めるため、受取人（札旦那）と札差の姓名、米高を記入した紙片を丸めて、支給日初日にそこに備え付けられた柄のついた箱（玉柄杓）に入れて、毎日箱を振って、紙玉の落ちた順番に米を渡した。このように旗本・御家人たちが、実際に扶持米を受け取ることを「玉落」と称した。

○晦日辛卯筒井万輔至乾府書目今日大成朝来冷甚向晚始熱然如四月中候此日雨灑午晴完戸生来此日矢田堀景蔵従属吏為教授出役

晦日辛卯。筒井万輔、至る。乾府の書目、今日大成す。朝来、冷甚し。晚に向て始めて熱し。然して四月中の候の如し。此の日、雨灑ぐ。午、晴。完戸生来る。此の日、矢田堀景蔵、属吏より教授出役と為る。

「矢田堀景蔵」安政二年当時、大番加納組。この後、両番格軍艦頭取（一八六一年）、軍艦奉行（一八六七）などを歴任し、慶応四年（一八六八）には海軍総裁となった。勝麒麟太郎（海舟）とともに、新設の長崎伝習所に赴き、オランダから購入した蒸気船の運用などを学んだ。

## 六月大

○朔日壬辰好晴登營拝賀如例林祭酒有談本阿弥来

朔日壬辰、好晴。營に登り、拝賀すること例の如し。林祭酒、談有り。本阿弥来る。

○二日癸巳風雨微雷青木江目来晚晴

二日癸巳、風雨。微雷あり。青木・江目来る。晚、晴。

○三日甲午晴風暑甚直營逢阪井右近林祭酒本覺来於東園禪話高山北角等来

三日甲午、晴、風あり。暑さ甚だし。營に直し、阪井右近・林祭酒に逢ふ。本覚来る。東園において禪話す。高山、北角等来る。

〔阪井右近〕阪井右近將監、名は政輝。林大学頭の実の孫。実父は林大内記。天保三年（一八三二）小普請より中奥番に入る。小十人頭、目付、使番、先手弓頭などを歴任し、安政二年五月より、火附盜賊改加役。

○四日乙未大雨大風

四日乙未。大雨。大風あり。

○五日丙申晴快暑豈勝言哉青木来戸矢来習一夜管新曲

五日丙申、晴。快し。暑、豈に言ふに勝へんや。青木来る。戸矢来る。一夜管の新曲を習ふ。

〔一夜管〕〔一節切（ひとよぎり）〕のこと。

○六日丁酉陰尼僧愚輩一橋宮女岩山中根長十狩野叔母隱婆等来雑沓極塾詩会

六日丁酉、陰。尼僧、愚輩、一橋宮女岩山、中根長十、狩野叔母、隱婆等来る。雑沓極れり。塾の詩会。

〔一橋宮女〕一橋家に仕える女官。

〔岩山〕岩山か。未詳。

〔中根長十〕中根長十郎。文化九年（一八一二）、部屋住より最樹院近習番となる。以降、兵部卿近習番（文政十年）、

一橋小十人頭(天保二年)、目付(天保四年)、勘定奉行(天保九年)、用人(天保十四年)などを歴任し、嘉永七年(一八五四)九月より一橋家人用(番頭格)。

○七日戊戌晴土用入訪拜一橋田安府及三河街小川街番街市谷本郷茗溪天神麓諸氏話于山田小南細井浅野四氏

七日戊戌、晴。土用の入り。一橋・田安家及び三河町・小川町・番町・市谷・本町・茗溪・天神・麓諸氏を訪拜す。  
山田・小南・細井・浅野四氏に話す。

○八日己亥霽直営賜瓜塩谷中務林祭酒有談荊螺臂永田場外桜田八洲常盤橋新橋三線溝暑候訪畢過長尾叔家帰後青山飯田完戸忠助塙次郎本覚来

八日己亥、霽。営に直す。瓜を賜はる。塩谷中務・林祭酒、荊螺臂を談ずる有り。永田馬場、外桜田、八洲、常盤橋、新橋、三線溝、暑さ候ひ訪ね畢んぬ。長尾叔家に過る。帰りて後、青山、飯田、完戸、忠助、塙次郎、本覚来る。

〔塩谷中務〕塩谷中務少輔。小普請頭取格。百俵。

〔荊螺臂〕未詳。

〔常盤橋〕外堀の神田橋と鍛冶橋の間にある橋。

〔塙次郎〕儒者。塙保己一の息。

○九日庚子午晴高山小川至青山来曝書始完戸生村垣弟太到夜津田小十郎来謁遣書于祭酒許月明

九日庚子、午に晴る。高山・小川至る。青山来り、曝書始む。完戸生・村垣弟太到る。夜、津田小十郎来り謁す。書を祭酒の許へ遣はす。月明らかなり。

○十日辛丑由比太左幡野亮輔田辺脩至河尻式部完戸鑑次来是日晴熱甚柏原来晚雷雨一過  
十日辛丑。由比太左、幡野亮輔、田辺脩至る。河尻式部、完戸鑑次来る。是の日、晴、熱甚し。柏原来る。晚に雷雨一過す。

○十一日壬寅晴石橋前田来晴潭并兎至晚来大雷大風雨一快月明是夕竹内弘助来自東奥不堪欣然雷震高村隆円宅及東台広小路白山処々

十一日壬寅、晴。石橋、前田来る。晴潭ならびに兎至る。晚来、大雷、大風雨あり。一快、月明らかなり。是の夕、竹内弘助、東奥より来る。欣然たるに堪へず。雷震ふ。高村隆円宅及び東台の広小路、白山処々。

○十二日癸卯曇与青山竹内拝肅公墓乘夜月帰有味茲日稲垣欽之丞来

十二日癸卯、曇。青山・竹内と肅公の墓を拝す。夜月に乗じて帰る。味有り。茲の日、稲垣欽之丞来る。

○十三日甲辰晴熱甚直営林祭酒北角氏有談

十三日甲辰、晴。熱甚し。営に直す。林祭酒・北角氏、談有り。

○十四日乙巳晴北角辻来左氏会夜泛舟于二洲橋下皎月清風興尤奇青生京生阿復芳睦陪焉虬船来冒挫之帰家四更飲於梅亭。

十四日乙巳、晴。北角、辻来る。左氏会。夜、舟を二洲橋下に泛ぶ。皎月清風、興、尤も奇なり。青生・京生・阿復・芳・睦、陪す。虬船来り、之を冒し挫く。家に帰れば四更なり。梅亭に飲す。

「二洲橋」両国橋。

○十五日丙午霽登殿奥拝賀遠藤但馬守殿達賜銀十枚宛于予及王父君蓋賞後鑑附録奉呈也面林祭酒帰途拝但州宅

十五日丙午、霽。殿に登り、奥に拝賀す。遠藤但馬守殿、銀十枚宛てを予及び王父君に賜ふことを達す。蓋し後鑑附録奉呈を賞するなり。林祭酒に面す。帰途、但州宅を拝す。

○十六日丁未霽熱甚五鼓前登宮嘉定御祝(羊羹)頂戴昨日之賜謝御用掛衆是日属吏筒井(五餅銀)佐久間江目田辺(銀三餅宛)於大学頭邸賜焉大番久貝因州隊高山良之助為属吏(戸矢権八来

十六日丁未、霽、熱甚し。五鼓前、宮に登る。嘉定御祝の羊羹を頂戴す。昨日の賜に謝す。御用係衆、是の日、属吏筒井(五餅銀)、佐久間・江目・田辺(銀三餅宛て)に大学頭の邸において賜ふ。大番久貝因州隊の高山良之助、属吏と為る。戸矢権八来る。

「五鼓」五ツ刻。午前八時。

「五餅銀」一分銀一枚を餅といったか。

「久貝因州」久貝因幡守正典。大番頭。五千五百石。歌人としても知られる。

○十七日戊申霽晚来一雨高山岩松渡辺安太越後平蔵咸三等来

十七日戊申、霽。晚来、一雨あり。高山、岩松、渡辺安太、越後平蔵、咸三等来る。

○十八日己酉雨直営曝書于乾府蓋今日始焉有西城御成故早収而帰是日或雨或晴至夜大雨二回十九日曉来大風掀屋

十八日乙酉、雨。営に直す。乾府に曝書す。蓋し今日始む。西城に御成り有るが故に、早く収めて帰る。是の日或は雨、或は晴。夜に至り大雨二回。十九日の曉来、大風、屋を掀ぐ。

「西城」西の丸か。

○十九日庚戌大風自南雨勢微午後風力少減小集岩関二子来

十九日庚戌。大風、南よりす。雨勢微かなり。午後風力少しく減ず。小集、岩・関二子来る。

○廿日辛亥呈勤調書于頭取書役雨霏々不已松岡肇至晚来如狩野氏藤沢順三来会夷寇談極大

廿日辛亥。勤の調書を頭取書役に呈す。雨霏々として已まず。松岡肇至る。晚来、狩野氏に如く。藤沢順三来り会す。夷寇、極めて大なるを談ず。

〔頭取書役〕 支配勘定格評定所書役。

○廿一日壬子晴未全登宮曝書如例於黒書院得見魯夷所獻大鏡二土圭一紅玉瓶二三橋寅次至

廿一日壬子、晴、未だ全からず。宮に登る。曝書、例の如し。黒書院に於て、魯夷献する所の大鏡二・土圭一・紅玉瓶二を見るを得たり。三橋寅次至る。

〔黒書院〕 表向の將軍の応接間。公式行事には白書院を、日常的な行事には黒書院を使用した。

〔魯夷所献〕 おそらくプチャーチンの使節団からの献上品。この年、足かけ三年にわたる交渉の末、日露和親条約が締結された。

〔土圭〕 時計。

○廿二日癸丑晴

廿二日癸丑、晴。

○廿三日甲寅晴感邪頭痛是日竹内生入塾使小林栄出以病辞直之書于朝多紀法印坂上玄順来診是日吐停飲数合

廿三日甲寅、晴。感邪。頭痛す。是の日竹内生入塾す。小林栄をして病を以て直を辞するの書を朝に出さしむ。多紀法印、坂上玄順来診す。是の日、吐停す。数合を飲む。



○廿四日乙卯晴疾少愈

廿四日乙卯、晴。疾少しく愈ゆ。

○廿五日丙辰雨晚晴疾大快

廿五日丙辰、雨。晚に晴る。疾、大いに快す。

○廿六日丁巳曇冷晴是日立秋節疾如昨阿瞽從廿三日每日来針塾詩会睦氏来摩

廿六日丁巳、曇。冷し。晴。是の日、立秋節なり。疾、昨の如し。阿瞽廿三日より毎日来り針す。塾の詩会。睦氏来り摩す。

○廿七日戊午雨霏々疾平阿瞽青山来高山良藤沢等有書

廿七日戊午、雨霏々たり。疾乎らかなり。阿瞽、青山来る。高山良、藤沢等の書有り。

○廿八日己未雨

廿八日己未、雨。

○廿九日庚申霽溽熱絶口左氏会

廿九日庚申、霽。溽熱、口を絶す。左氏会。

○晦日辛酉晴熱酷是日出勤曝書如例原弥十林祭酒有談

晦日辛酉、晴。熱、酷し。是の日、出勤。曝書、例の如し。原弥十・林祭酒、談有り。

### 七月小

○朔日壬戌晴登宮拝賀曝書如例属史秋山新三免本阿弥来

朔日壬戌、晴。宮に登り拝賀す。曝書、例の如し。属史秋山新三、免ぜらる。本阿弥来る。

○二日癸亥晴熱酷藤沼富三小山縫右来微雷

二日癸亥、晴。熱酷なり。藤沼富三、小山縫右来る。微かに雷す。

○三日甲子霽登宮曝書如例木村勝右来此日地震

三日甲子、霽。宮に登る。曝書、例の如し。木村勝右来る。此の日、地震ふ。

○四日乙丑雨少灑乍晴大熱王父君微邪

四日乙丑、雨少しく灑ぎ、乍ち晴る。大いに熱し。王父君微邪。

○五日丙寅晴酷炎登營曝書如例木村勝右來頭取明日駿河守殿御通詞

五日丙寅、晴、酷炎。營に登る。曝書、例の如し。木村勝右來る。頭取より明日駿河守殿の御通詞ありと。

○六日丁卯霽登營大溜駿州達時衣一襲但代金拝賜是日仁讓院殿百年周忌細君阿復等拜尼等于本法寺有祭至今日熱威極熾藤沼富三為屬史

六日丁卯、霽。營に登る。大溜にて駿州、時衣一襲、但し金に代えて拝賜すと達す。是の日、仁讓院殿百年周忌。細君・阿復・等尼等と本法寺に拝し、祭有り。今日に至り熱威極めて熾なり。藤沼富三屬史と為る。

○七日戊辰霽登營奉賀如例年暑烈完生藤沼富三來

七日戊辰、霽。營に登る。奉賀すること例年の如し。暑烈し。完生、藤沼富三來る。

○八日己巳曇直營無曝書雨暫而止少冷

八日己巳、曇。營に直す。曝書無し。雨暫くして止む。少しく冷なり。

○九日庚午陰左氏会夜如柏原氏は日晴

九日庚午、陰。左氏会。夜、柏原氏に如く。是の日、晴。

○十日辛未晴又熱原弥十郎有書

十日辛未、晴。又熱し。原弥十郎、書有り。

○十一日壬申霽腸痛託曝書之事于小林栄

十一日壬申、霽。腸痛し。曝書の事を小林栄に託す。

○十二日癸酉晴戸矢権八来杉本到

十二日癸酉、晴。戸矢権八来る。杉本到る。

○十三日甲戌霽直営曝書今日至十六日以盆会休焉熱甚為諸會計畢

十三日甲戌、霽。営に直す。曝書、今日より十六日に至り盆会を以て休す。熱甚し。諸會計を為し畢る。

○十四日乙亥雨雑事輻輳辻龍之助来微雷夜大雨

十四日乙亥、雨。雑事輻輳す。辻龍之助来る。微かに雷あり。夜、大雨。

○十五日丙子雨午晴擊劍數回月明甚快

十五日丙子、雨、午晴る。擊劍數回。月明らかなり。甚だ快し。

○十六日丁丑霽狩叔母春川及舟晴潭來有米商之談夜月明到四更而臥

十六日丁丑、霽。狩叔母・春川及び舟晴潭來る。米商の談有り。夜、月明らかなり。四更に到りて臥す。

○十七日戊寅晴如倉店受金多紀法印來蓋王父君自本月上旬有疾也中村建三來有談雷雨夜如狩野氏

十七日戊寅、晴。倉店へ如き金を受く。多紀法印來る。蓋し王父君、本月上旬より疾有るなり。中村建三來り談有り。

雷雨。夜、狩野氏に如く。

○十八日己卯晴直營曝書如例董叔來

十八日己卯、晴。營に直す。曝書、例の如し。董叔來る。

○十九日庚辰晴陰不定大冷松岡肇來舟橋來授北越店金小集植村金子岩松佐藤駒次等來多紀安琢來

十九日庚辰、晴陰定まらず大いに冷し。松岡肇來る。舟橋來り北越店の金を授く。小集。植村・金子・岩松・佐藤駒次等來る。多紀安琢來る。

○廿日辛巳陰小雨篠木及一紫夫人来

廿日辛巳、陰。小雨。篠木及び一紫夫人来る。

○廿一日壬午雨不朝阪上玄丈始来面小南鉦田辺平到地震夜中

廿一日壬午、雨。朝せず。阪上玄丈始めて来り面す。小南鉦・田辺平到る。地、夜中に震ふ。

○廿二日癸未晴陰朝来如虎門河村家相伴拜三縁山慎徳公闕宮因公三回忌也

廿二日癸未、晴、陰。朝来、虎門の河村家に如き、相伴ひて三縁山の慎徳公闕宮を拜す。公の三回御忌に因るなり。

〔慎徳公〕十三代將軍家慶。

〔三縁山〕浄土宗大本山増上寺。

○廿三日甲申晴直營曝書如例呈本所別邸借董叔之届書於月番右京殿但以中務少輔也面林祭酒談前原三蔵事王父君疾不快訪客日来

廿三日甲申、晴。營に直す。曝書、例の如し。本所別邸を董叔に借るの届書を月番右京殿に呈す。但し中務少輔を以てなり。林祭酒に面し、前原三蔵の事を談ず。王父君の疾、快からず。訪客日々来る。

○廿四日乙酉陰時雨林祭酒有書訪王父君疾董叔完戸鹿兒等至中村建三小川佐左来

廿四日乙酉、陰、時に雨有り。林祭酒、書有り。王父君の疾を訪ふ。董叔、完戸、鹿兒等至る。中村建三、小川佐左来る。

○廿五日丙戌晴夕雨曝書登營如例王父君疾少加狩叔母君来宿

廿五日丙戌、晴。夕雨。曝書。營に登ること例の如し。王父君の疾、少しく加ふ。狩叔母君来り宿す。

○廿六日丁亥雨如佐野氏謁叔母君夜大風雨

廿六日丁亥、雨。佐野氏に如く。叔母君に謁す。夜、大風雨。

○廿七日戊子大風雨至夕霽

廿七日戊子、大風雨。夕に至り霽る。

○廿八日己丑雨登營拝賀如例無曝書

廿八日己丑、雨。營に登り拝賀すること例の如し。曝書無し。

○廿九日庚寅雨未だ休渡瀬龍之介来謁雄三義父也

廿九日庚寅、雨未だ休まず。渡瀬龍之介来り謁す。雄三の義父なり。

## 八月大

○朔日辛卯雨霏々不朝

朔日辛卯、雨霏々たり。朝せず。

《余説》八月朔日は徳川家康江戸入府にあたることから、諸大名・旗本は白帷子を着て登城し、祝詞を述べた重要な日。

○二日壬辰雨不全晴狩叔母君秋忠助等来

二日壬辰、雨全くは晴れず。狩叔母君、秋忠助等来る。

○三日癸巳陰漸晴直営無曝書

三日癸巳。陰。漸く晴る。営に直す。曝書無し。

○四日甲午晴叔母還于浜街理書篋藏於庫斯日閣老松平和泉守松平伊賀守免長屋陽一藤沢順三等至

四日甲午、晴。叔母、浜街へ還る。書篋を理し庫に藏む。斯の日、閣老松平和泉守・松平伊賀守免ぜらる。長屋陽一、藤沢順三等至る。



○五日乙未晴登營曝書如例北薇寺地強平來不逢

五日乙未、晴。營に登る。曝書、例の如し。北薇の寺地強平來る。逢はず。

○六日丙申雨又陰完生到（生蓋改名健一郎）

六日丙申、雨又た陰。完生到る（生、蓋し健一郎と改名す）。

○七日丁酉晴未快登營与林栄曝書如例今日而畢矣雲雀恩賜此日令下

七日丁酉、晴。未だ快からず。營に登る。林栄と曝書、例の如し。今日にして畢んぬ。雲雀の恩賜あり。此の日、令下る。

〔雲雀の恩賜〕將軍が鷹狩りをおこなうと、家臣に獲物の恩賜があつた。

○八日戊戌雨或晴登殿掃乾府晩雷

八日戊戌、雨或は晴。殿に登る。乾府を掃ふ。晩、雷あり。

○九日己亥晴左氏会

九日己亥、晴。左氏会。

○十日庚子晴飯田咸鹿兒立来

十日庚子、晴。飯田咸、鹿兒立来る。

○十一日辛丑晴残炎又催檢書函

十一日辛丑、晴。残炎、又た催す。書函を檢す。

○十二日壬寅晴炎熾董叔来

十二日壬寅、晴。炎熾んなり。董叔来る。

○十三日癸卯晴熱甚直營北角田村宗達来

十三日癸卯、晴。熱甚し。營に直す。北角、田村宗達来る。

○十四日甲辰曇倉地言行来松岡到詩経会忽有火岩井街騷擾甚少頃而熄飯田名倉至

十四日甲辰、曇。倉地言行来る。松岡到る。詩経会。忽ち火有り。岩井街騷擾甚し。少頃にて熄む。飯田、名倉至る。

○十五日乙巳陰登殿拝賀如例雨洒無月小筵

十五日乙巳。陰。殿に登る。拝賀、例の如し。雨洒ぎ月無し。小筵。

○十六日丙午晴松岡来小集岡宮二名来此夜月明

十六日丙午、晴。松岡来る。小集。岡・宮二名来る。此の夜、月明らかなり。

○十七日丁未蒸溽甚陰叔母来従本所

十七日丁未。蒸溽甚し。陰。叔母、本所より来る。

○十八日戊申雨金子来

十八日戊申、雨。金子来る。

○十九日己酉雨左氏会

十九日己酉、雨。左氏会。

○廿日庚戌雨霏々登管次講孟二章面林氏

廿日庚戌、雨霏々たり。管に登る。孟二章に次講す。林氏に面す。

○廿一日辛亥晴叔母返于本所

廿一日辛亥、晴。叔母、本所に返る。

○廿二日壬子陰少雨本覚晴潭至

廿二日壬子。陰。少雨。本覚、晴潭至る。

○廿三日癸丑陰直營過実紀局

廿三日癸丑。陰。營に直す。実紀局に過ぎる。

○廿四日甲寅晴新冷湯淺猪之助筒井万輔川邑助治来詩経会

廿四日甲寅、晴。新冷。湯淺猪之助、筒井万輔、川邑助治来る。詩経会。

○廿五日乙卯晴冷如林氏小集雪江来

廿五日乙卯、晴。冷。林氏の小集に如く。雪江来る。

○廿六日丙辰晴昨田沢兵庫達廿七日駕如吹上苑觀甲軍調習僕等亦賜觀云午前如実紀局校猷廟実紀

廿六日丙辰、晴。昨、田沢兵庫、廿七日、駕の吹上苑に如き、甲軍の調習を觀るを達す。僕等も亦た觀を賜は

ると云ふ。午前、実紀局に如き、猷廟実紀を校す。

〔猷廟〕院号を大猷院と称した徳川家光のこと。

○廿七日丁巳晴蚤起登殿觀大番士其余步行前鋒之士甲軍於吹上午後退出董叔大久保弥九来夜一雨今曉小島隼太物故

廿七日丁巳、晴。蚤起す。殿に登り、大番士其余の步行、前鋒の士の甲軍を吹上に觀る。午後、退出す。董叔、大久保弥九来る。夜、一雨。今曉、小島隼太物故す。

○廿八日戊午雨霏々登直

廿八日戊午、雨霏々たり。直に登る。

○廿九日己未陰冷左氏会阿留入内室

廿九日己未。陰。冷。左氏会。阿留、内室に入る。

○晦日庚申霽閱書函中村建来

晦日庚申、霽。書函を閱す。中村建来る。

九月大

○朔日辛酉晴登宮拝賀如例

朔日辛酉、晴。宮に登る。拝賀、例の如し。

○二日壬戌晴与青大生及三塾生遊王子村過文叟宅夜帰暗冥迷途石竹二生後焉竹生誤墜道灌邸谷幸完矣

二日壬戌、晴。青・大生及び三塾生と王子村に遊ぶ。文叟宅に過る。夜帰る。暗冥、途に迷ひ石・竹二生後る。竹生誤りて道灌邸の谷に墜つ。幸に完し。

〔道灌邸〕日暮里にある台地、道灌山。

○三日癸亥雨直營過実紀局

三日癸亥、雨、營に直す。実紀局に過る。

○四日甲子雨霏詩経会

四日甲子、雨霏々たり。詩経会。

○五日乙丑雨中村貞庵来話

五日乙丑、雨。中村貞庵来り話す。

○六日丙寅晴

六日丙寅、晴。

○七日丁卯淡霽如昌平局校史恒篠到

七日丁卯。淡霽。昌平局に如き史を校す。恒篠到る。

○八日戊辰晴又雨不定直営昨林祭酒姉（堀豆州妻）逝遣嘉平赴弔夜長叔来

八日戊辰、晴、又た雨、定まらず。営に直す。昨、林祭酒姉（堀豆州妻）逝く。嘉平を遣はして弔に赴かしむ。夜、長叔来る。

○九日己巳雨登営拝賀如例

九日己巳、雨。営に登る。拝賀、例の如し。

○十日庚午雨霏左氏会

十日庚午、雨霏々たり。左氏会。

○十一日辛未雨

十一日辛未、雨。

○十二日壬申雨晚霽

十二日壬申、雨、晩に霽る。

○十三日癸酉陰直宮過実紀局或陰或晴

十三日癸酉、陰。宮に直す。実紀局に過る。或は陰り或は晴る。

○十四日甲戌未全晴詩経会

十四日甲戌。未だ全くは晴れず。詩経会。

○十五日乙亥曇有故不朝本日神田祠祭鼓鑿鑿与董叔春川遊王子村過文翁瑞花庵夜歸是夕月蝕

十五日乙亥、曇。故ありて朝せず。本日、神田祠の祭なり。祭鼓、鑿鑿たり。董叔・春川と王子村に遊ぶ。文翁の瑞花庵に過る。夜、歸る。是の夕、月蝕あり。

「神田祭」神田明神の祭り。現在は五月中旬に行われるが、本来は旧暦の九月十五日。関が原の戦いに際して家



康が戦勝の祈祷を命じ、神田祭りの九月十五日に勝利したので家康は特に崇拝するようになったという。

○十六日丙子晴夕雨

十六日丙子、晴、夕に雨。

○十七日丁丑晴午後始訪董叔林街新居山岡熊次来会谈話数刻二更帰宅

十七日丁丑、晴。午後始めて董叔を林街の新居に訪ふ。山岡熊次来り会す。談話数刻、二更に帰宅す。

「董叔林街新居」七月二十三日に柳北は董叔から本所の別邸を借りている。「林街」は本所の「林町」のこと（『江戸砂子』）。

○十八日戊寅晴直営吹上行軍上覧余亦往觀南風疾頭王父君疾頃日頗快可欣抃也

十八日戊寅、晴。営に直す。吹上の行軍、上覧あり。余も亦た往きて觀る。南風、頭を疾む。王父君の疾、頃日頗る快なり。欣抃すべきなり。

○十九日己卯霽如鈴昌芳家国雅宴董叔篠木等来会夜帰

十九日己卯、霽。鈴昌芳の家の国雅の宴に如く。董叔、篠木等来り会す。夜帰る。

○廿日庚辰晴暖甚登營次講孟四章過実紀局頃日浜奉行見習木村勘助為西城監察滿朝愕然

廿日庚辰、晴。暖甚し。營に登る。孟四章を講ずるに次す。実紀局に過る。頃日、浜奉行見習ひ木村勘助、西城監察と為る。滿朝愕然たり。

〔浜奉行〕浜御殿（現在の浜離宮庭園の地にあつた徳川將軍家の御殿。）を管理する奉行。

〔西城監察〕西の丸目付。

〔木村勘助〕木村摂津守喜毅、号は芥舟。父は浜御殿奉行。阿部正弘の引き立てを受ける。軍艦奉行として威臨丸の艦長となり渡米。勝麟太郎が指揮官として乗船。

○廿一日辛巳晴小集関船金諸子来

廿一日辛巳、晴。小集。関・船・金諸子来る。

○廿二日壬午好晴有雨曝古筆

廿二日壬午。好晴、雨有り。古筆を曝す。

○廿三日癸未晴直営面祭酒上生母本寿院跡部氏宜準諸公主旨佐州達

廿三日癸未、晴。営に直す。祭酒に面す。上の生母本寿院跡部氏、宜しく諸公主に準ずべき旨、佐州達す。〔本寿院〕文久四（一八〇七）〜明治一八（一八八五）。十二代將軍家慶の側室。家定の生母。家慶が亡くなって

いるので落飾し、院を称している。『藤岡屋日記』文久元年九月二十五日の「一今五半時の御供揃二而、御広敷より二丸大興<sup>江</sup>、本寿院様御引移。」とある。江戸開城後は篤姫と一橋邸に身を寄せた。

○廿四日甲申晴左氏会

廿四日甲申、晴。左氏会。

○廿五日乙酉霽登營出泊省賀本寿夫人之事賜酒肴如林氏小集夜過佐叔話久

廿五日乙酉、霽。營に登る。泊省に出づ。本寿夫人のことを賀し、酒肴を賜る。林氏の小集に如く。夜、佐叔に過る。話すること久し。

「泊省」宿直者の泊まり場所。

「本寿夫人」表現が変わったことから、二十五日の項と同様、本寿院が夫人の列に連なったことを特筆するものと解される。

○廿六日丙戌雨霏々松岡来宿

廿六日丙戌、雨霏々たり。松岡来り宿す。

○廿七日丁亥晴林学斎書有掃小斎

廿七日丁亥、晴。林学斎、書有り。小斎を掃ふ。

○廿八日戊子霽直営董叔来夜地震

廿八日戊子、霽。営に直す。董叔来る。夜、地震ふ。

○廿九日己丑霽左氏会夜須田街火地少震頭取達丑年拝借金有命不及奉返

廿九日己丑、霽。左氏会。夜、須田街に火あり。地少しく震ふ。頭取、丑年の拝借金、命有りて返し奉るに及ばずと達す。

○晦日庚寅晴南風青生来掃書室一浴大快

晦日庚寅、晴。南風。青生来る。書室を掃ふ。一浴す。大いに快し。

### 十月小

○朔辛卯晴登殿拝賀如例恩借金令出故廻謝福山侯参政五人御用懸邸

朔辛卯、晴。殿に登る。拝賀、例の如し。恩借金令出づるが故に福山侯、参政五人、御用懸の邸に廻謝す。  
〔福山侯〕老中阿部正弘。備後福山十一万石。伊勢守。

「参政」執政の次に位し政治に参与する職。若年寄。

「恩借金令」『大日本史料』安政二年九月二十八日「麾下士に令して、癸丑の年、貸与せし金を納るを止め、各自銃砲を整備せしむ、」とある。

○二日壬辰晴是日二更依案読書忽聞轟然一声来自西南屋宇掀動走排戸而出庭歩不可拳疑万雷震地暫而息屋舎尽東傾垂覆蔵庫土雨下剥大半家族幸無恙等行婢展少傷頂耳幸甚幸甚須臾天色紅警鼓数声火烟四起凡三十箇所王父君臥病仍輿而避火於東台凌雲院北堂及細君婢等皆從余及竹内高玉及一奴留焉火益熾則運什器余亦提竹生登殿大君已避吹上苑因面田村柳沢両頭取而返

二日壬辰、晴。是の日の二更、案に依りて読書するに、忽ち轟然たる一声、西南より来るを聞く。屋宇、掀動す。走りて戸を排して庭に出づ。歩は拳ぐるべからず。万雷、地を震はすかと疑ふ。暫くして息む。屋舎は尽く東に傾き、垂れて蔵庫を覆ふ。土雨下り、剥がるること大半なり。家族幸ひに恙無し。等行の婢、展びて少しく頂を傷つくるのみ。幸甚幸甚。須臾にして天色紅なり。警鼓数声して火烟四起す。凡そ三十箇所なり。王父君は臥病す。仍て輿して火を東台の凌雲院に避く。北堂及び細君・婢等は皆從ふ。余及び竹内・高玉及び一奴は留まる。火益々熾んなれば則ち什器を運ぶ。余も亦た竹生を提げて殿に登る。大君は已に吹上苑に避く。因て田村・柳沢両頭取に面して返る。

「二更」午後十時頃。

「凌雲院」上野東叡山三十六坊中、第一位。現在の西洋美術館と文化会館のあたりにあったとされる。

○三日癸巳晴火未滅益迫邸余一飯美可言哉巳牌火至佐叔邸後而止是日直日先如東台而尋家族不逢乃婦朝營大君已返宮辭而婦母君等亦歸家屋不可住什器乱雜事不足言扶王父君移不可拔斎余造綿絶于庫之西而居庫北傾泥皆剥落庫前小舎摧挫地動数次前夜之晝死傷幾万人有不忍聞見矣是日弔林氏

三日癸巳、晴。火未だ滅せず。益ます邸に迫る。余、一飯す。美きこと、言ふべけんや。巳牌、火は佐叔邸の後に至りて止む。是の日、直日なり。先づ東台に如きて、家族を尋ぬるも逢はず。乃ち歸る。營に朝す。大君已に宮に返れば、辭して歸る。母君等も亦た歸る。家屋は住むべからず。什器の乱雜なる事、言ふに足らず。王父君を扶け移す。拔斎すべからず。余、綿絶を庫の西に造りて居す。庫、北に傾き、泥は皆な剥落す。庫前の小舎、摧挫す。地動くこと数次、前夜の晝、死傷幾万人なるか、聞見するに忍びざる有り。是の日、林氏を弔す。

〔巳牌〕巳の刻。午前十時頃。

〔拔斎〕野宿。

〔綿絶〕「綿蕞」。野外で礼儀を習う所。周圍に竹を立て連ね、繩を張り、茅を束ねたものを立てめぐらす。

〔三日癸巳、晴〕この五字後から挿入されたものであり、以下の文章は二日の文章と時間的に連続していると考えられる。つまり二日の夜中に地震が発生し、夜通し家族の非難等が行われ、殿に登って帰った頃に夜が明け、そこからを「三日」として日付けが書き込まれたものと思われる。つまりそれまで食事など摂る暇はなく、邸に火が迫る中の慌しい中で十時頃、初めて腹にものを入れ、それが「美きこと、言ふべけんや」の表現になったと思われる。

〔晷〕 わざわい。

〔弔〕 見舞う。

○四日甲午晴

四日甲午、晴。

○五日乙未

五日乙未。

○六日丙申

六日丙申。

○七日丁酉夜酉牌地震頗剛

七日丁酉。夜、酉牌、地震ふ。頗る剛し。

〔酉牌〕 酉の刻。午後六時頃。

○八日戊戌直営

八日戊戌。營に直す。

○九日己亥

九日己亥。

○十日庚子

十日庚子。

○十一日辛丑頃日地動日数次人心不安

十一日辛丑。頃日、地動くこと日に数次。人心、安からず。

○十二日壬寅地又震少強

十二日壬寅。地又た震ふ。少しく強し。

○十三日癸卯雨直營弔林氏不逢勘定奉行有書

十三日癸卯、雨。營に直す。林氏に弔するも逢はず。勘定奉行、書有り。



○十四日甲辰雨霏如小林氏面敬之助以上日録追記

十四日甲辰、雨霏々たり。小林氏に如き、敬之助に面す。以上、日録追記す。

○十五日乙巳霽地猶時震松岡来宿

十五日乙巳。霽。地、猶ほ時に震ふ。松岡来り宿す。

○十六日丙午晴寒威日倍

十六日丙午、晴。寒威。日に倍す。

○十七日丁未霽地未震止

十七日丁未、霽。地未だ震ふこと止まず。

○十八日戊申雨直営夜大雨雷電風暴

十八日戊申、雨。営に直す。夜大雨、雷電。風暴あらしし。

○十九日己酉晴与大和生訪古錢翁翁尚饗鑠浅草寺塔尖曲彎奇哉是夜伊沢生来十日歸於下田戸田村告爺可十没此二日之變可悼

十九日己酉、晴。大和生と古銭翁を訪ぬ。翁、尚ほ嬰鑠たり。浅草寺の塔尖の曲彎、奇なるかな。是の夜、伊沢生来る。十日下田の戸田村より帰る。爺可十の没するを告ぐ。此の二日の変悼むべし。

〔浅草寺塔尖曲彎〕安政二年十月二日、安政の大地震で浅草寺の大塔の先端が曲がったという。

○廿日庚戌霽地未安母君如林街

廿日庚戌、霽。地未だ安からず。母君、林街に如く。

○廿一日辛亥晴朝来震三回晚大風

廿一日辛亥、晴。朝来、震ふこと三回。晚に大風。

○廿二日壬子霽篠木大次至

廿二日壬子、霽。篠木大次至る。

○廿三日癸丑晴直営面祭酒

廿三日癸丑、晴。営に直す。祭酒に面す。

○廿四日甲寅雨常協日々来理雑事

廿四日甲寅、雨。常・協、日々来り、雑事を理む。

○廿五日乙卯晴

廿五日乙卯、晴。

○廿六日丙辰霽董叔春川来

廿六日丙辰、霽。董叔・春川来る。

○廿七日丁巳晴如狩野氏

廿七日丁巳、晴。狩野氏に如く。

○廿八日戊午晴暖直菅夜風

廿八日戊午、晴。暖かし。菅に直す。夜、風。

○廿九日己未曇中村建三至

廿九日己未、曇。中村建三至る。

十一月

○朔日庚申晴米商報玉落但明日

朔日庚申、晴。米商、玉落を報ず。但し明日なり。

○二日辛酉霽松岡来

二日辛酉、霽。松岡来る。

○三日壬戌晴陰直営面祭酒如倉商受俸金

三日壬戌、晴、陰。営に直す。祭酒に面す。倉商に如き、俸金を受く。

○四日癸亥雨霽大風寒甚祖父君母君妻妹二婢如林街狩野氏暫宿

四日癸亥、雨、霽。大風。寒さ甚だし。祖父君・母君・妻・妹・二婢、林街の狩野氏に如く。暫く宿す。

○五日甲子晴暖井上主□来

五日甲子、晴。暖かし。井上主□来る。

〔□〕判読不能。「税」或は「敬」か。

○六日乙丑晴如狩野氏問祖父病拜本法寺肅公墓授金式方于僧但三回忌香資也過權翁宅  
六日乙丑、晴。狩野氏に如き、祖父の病を問ふ。本法寺の肅公の墓を拜す。金式方を僧に授く。三回忌の香資なり。  
權翁の宅に過ぎる。

○七日丙寅晴井上来

七日丙寅、晴。井上来る。

○八日丁卯曇直營母君來於林街小川佐左至

八日丁卯、曇。營に直す。母君、林街より来る。小川佐左至る。

○九日戊辰晴井上来

九日戊辰、晴。井上来る。

○十日己巳晴肅公三回忌速夜杉本青山渡瀬松岡大生來会

十日己巳、晴。肅公三回忌の速夜なり。杉本、青山、渡瀬、松岡、大生來り会す。

○十一日庚午晴拜肅公墓舟橋井上松岡從過林街問祖君疾此夜近江店佐兵衛携古泉來謁彼奇叟也震漸斷

十一日庚午、晴。肅公の墓に拜す。舟橋・井上・松岡、從ふ。林街に過り祖君の疾を問ふ。此の夜、近江店佐兵衛、古泉を携へ來り謁す。彼の奇叟なり。震漸く断ゆ。

「古泉」古銭。収集家は古泉の表記を好む。この近江店佐兵衛は、十月十九日の項に出る「古銭翁」か。

○十二日辛未晴松本青山來夜月明烟深震少來

十二日辛未、晴。松本、青山來る。夜、月明らかに烟深し。震少しく來る。

○十三日壬申晴大風直營過佐野叔不逢

十三日壬申、晴。大風。營に直す。佐野叔に過ぎるも逢はず。

○十四日癸酉冬至陰夜大風

十四日癸酉、冬至。陰。夜、大風。

○十五日甲戌晴朝來二回震

十五日甲戌、晴。朝來二回震ふ。

○十六日乙亥晴風如上山狩野氏松岡来食鹿肉

十六日乙亥、晴。風、山を上ぐるが如し。狩野氏、松岡来る。鹿肉を食ふ。

○十七日丙子晴恂斎来母君来於林街阿復陪焉

十七日丙子、晴。恂斎来る。母君、林街より来る。阿復陪す。

○十八日丁丑晴曙一震頗剛直営西村左兵衛来

十八日丁丑、晴。曙に一震、頗る剛し。営に直す。西村左兵衛来る。

○十九日戊寅晴風寒氷厚岡本至

十九日戊寅、晴。風寒く、氷厚し。岡本至る。

○廿日己卯晴小川至

廿日己卯、晴。小川至る。

○廿一日庚辰霽艸薙吉五至

廿一日庚辰、霽。草薙吉五至る。

○廿二日辛巳晴夕如杉本此日宇都生来

廿二日辛巳、晴。夕に杉本に如く。此の日、宇都生来る。

○廿三日壬午霽直営過林氏面学齋阿細来於林街

廿三日壬午、霽。営に直す。林氏に過り、学齋に面す。阿細、林街より来る。

○廿四日癸未晴如狩野氏過權斎夜六時後楓山御供所火走朝営

廿四日癸未、晴。狩野氏に如く。權斎に過る。夜六時後、楓山御供所に火走る。営に朝す。

○廿五日甲申晴

廿五日甲申、晴。

○廿六日乙酉霽董叔至

廿六日乙酉、霽。董叔至る。

○廿七日丙戌晴青生来読史略



廿七日丙戌、晴。青生来る。史略を読む。

○廿八日丁亥晴直營夕食豚

廿八日丁亥、晴。營に直す。夕、豚を食ふ。

○廿九日戊子晴青生史略四時小寒

廿九日戊子、晴。青生、史略。四時、小寒。

○晦日己丑晴頭取達明日御通詞曲直瀬贈豚

晦日己丑、晴。頭取、明日の御通詞を達す。曲直瀬、豚を贈る。

## 十二月小

○朔庚寅淡霽朝宮丹波守殿御通詞御召御熨斗目八丈縞綿二拝領

朔庚寅、淡霽。宮に朝す。丹波守殿の御通詞。御召の御熨斗目、八丈縞綿二、拝領す。

○二日辛卯曇寒甚微雪乍晴頭取達明日御通詞

二日辛卯、曇。寒さ甚し。微雪、乍ち晴。頭取、明日の御通詞を達す。

○三日壬辰晴登殿於大溜丹後守殿御通詞賜全五円伊沢至

三日壬辰、晴。殿に登る。大溜に於いて丹後守殿の御通詞。金五円を賜はる。伊沢至る。

○四日癸巳晴此夜震頗剛夜々電

四日癸巳、晴。此の夜、震、頗る剛し。夜々電す。

○五日甲午晴如林街有歌会夜与恂齋帰

五日甲午、晴。林街に如く。歌会有り。夜、恂齋と帰る。

○六日乙未晴

六日乙未、晴。

○七日丙申晴川田屏浦為儒員川村助治為細工頭

七日丙申、晴。川田屏浦、儒員と為り、川村助治、細工頭と為る。

○八日丁酉霽直営夜八町堀火

八日丁酉、霽。営に直す。夜、八町堀、火あり。

○九日戊戌晴

九日戊戌、晴。

○十日己亥晴

十日己亥、晴。

○十一日庚子霽

十一日庚子、霽。

○十二日辛丑晴

十二日辛丑、晴。

○十三日壬寅霽直営晩如権斎許

十三日壬寅、霽。営に直す。晩、権斎の許に如く。

○十四日癸卯雨此日経営預成乃掃塵

十四日癸卯、雨。此の日、経営の預よらく成りて、乃ち塵を掃ふ。

○十五日甲辰晴始移本室伊沢恂斎青山奇人至百工来賀乃賜酒肴夜飲及曉

十五日甲辰、晴。始めて本室に移る。伊沢恂斎、青山、奇人至る。百工来りて賀す。乃ち酒肴を賜ふ。夜飲、曉に及ぶ。

○十六日乙巳晴甚無聊嘉平如狩野

十六日乙巳、晴。甚だ無聊。嘉平、狩野に如く。

○十七日丙午晴筒井万輔来如狩野氏

十七日丙午、晴。筒井万輔来る。狩野氏に如く。

○十八日丁未晴直營過佐叔邸

十八日丁未、晴。營に直す。佐叔邸に過ぎる。

○十九日戊申霽陰王父君母君細君阿復歸於林街夜雪

十九日戊申、霽、陰。王父君・母君・細君・阿復、林街より歸る。夜、雪。

○廿日己酉大雪霏寒威甚一震

廿日己酉、大雪、霏々たり。寒威、甚し。一震す。

○廿一日庚戌晴

廿一日庚戌、晴。

○廿二日辛亥晴

廿二日辛亥、晴。

○廿三日壬子晴直營夜如晴潭許不遭又如津田小十宅又不逢

廿三日壬子、晴。營に直す。夜、晴潭の許に如くも、遭はず。又た津田小十の宅に如くも、又た逢はず。

○廿四日癸丑曇晴潭来

廿四日癸丑、曇。晴潭来る。

○廿五日甲寅晴如津田小十宅五更返家

廿五日甲寅、晴。津田小十の宅に如く。五更、家に返る。

○廿六日乙卯晴登菅恩賜如例

廿六日乙卯、晴。菅に登る。恩賜、例の如し。

○廿七日丙辰曇雪霰来如倉商北角氏此日節文

廿七日丙辰、曇。雪霰来る。倉商・北角氏に如く。此の日、節文なり。

〔節文〕節分の意。

○廿八日丁巳霽直菅晚如柏原氏歳晚混忙未有如今日也

廿八日丁巳、霽。菅に直す。晚、柏原氏に如く。歳晚の混忙、未だ今日の如きこと有らざるなり。

○廿九日戊午晴董叔春川至夜来会計尽畢便寐

廿九日戊午、晴。董叔・春川至る。夜来、会計尽く畢り、便ち寐ぬ。

揖斐高・日野俊彦・山口旬・藤井美保子・三浦億人・高橋昭男・重友克夫・松原梨佳・結城俊治・アレックス・デ・ロッシ  
『硯北目録』――翻刻・訓読・略注と索引（二）安政二年

確堂主人

『硯北日録』(安政二年) 人名索引(稿)

〔凡例〕

○見出し項目は、本文中の姓名が略されない形を項目とした。一般的に知られた人物などは本文中に書かれなくても、姓などを補った。

○特定の人物を指さずに、漠然と一家をしめす場合などは別に項目に立てた。

○項目名のある箇所は、例えば七月二十六日は⑦26の形で示した。

○項目は、必ずしもよみを特定できないが、常識的と思えるよみで、五十音順に配列した。

○別表記で同一人物と考える場合は項目下の( )に別表記形を示し、別表記形でも項目を立て、↓で本見出し形を示した。ただし、青木銀三を青とするなど単純な省略形は項目を立てなかった。

○固有名詞だけでなく、誰そのの夫人・役職名など、名が知らなくても人物を特定できる場合は、( )の )、等の形で立項した。例…(成島柳北の) 母君

○同一日に複数回記述される人物も日付は一つにまとめた。

○修姓は、本文に含まれない場合も含めてできるだけ復元した。例…狩↓ 狩野

○女性名の頭に附される「阿」の字は、略した形を項目とした。例…阿復↓ 復

《安政二年追加項目》

○安政元年に既出の人物\*を見出しの後に附した。  
○安政二年の本文には現れないが安政元年の本文から姓名が推測できる場合は見出しに立てた。

【あ】

- 青木銀三\* (青、青木) …①3・5・8・9・12・23・24・26・28、  
 ②4・8・9・16・18・19・21・26、③2・6・11、⑤2・5・  
 23、⑥2・5・14、⑨2・30、⑪27・29  
 (青木銀三の) 姉貞\* …②18・21、⑤23  
 青木左京 …②26  
 青木春岱 …①1  
 青山\* …①17、⑥8・9・12・27、⑪10・12  
 青山子\* …①16  
 青山奇人 …⑫15  
 秋田\* …②5  
 秋山新三 …⑦1  
 秋山忠介\* (忠助、秋忠助、秋忠介) ①15、④14、⑤22、⑥8、⑧2  
 明楽八五 (明楽) …③27、④2・17、⑤7・27 抹消部  
 阿瞽\* …⑤21、⑥26・27  
 安積良斎\* (良斎、良翁、安積良翁、安積祐助、権翁、権斎)  
 …④8・25・28、⑤1、⑪6・24、⑫13



浅野……………⑥ 7

朝比奈甲州\* (甲州) ……② 8 · 12

跡部氏 ↓ 本寿院跡部氏

姉 ↓ (青木銀三の) 姉貞

姉 ↓ 林祭酒姉

阿部正弘\* (阿部、福山侯) ……② 11、⑩ 1

[5]

飯田咸三\* (飯田、咸三、飯田咸) ……① 1、③ 8、⑤ 1、⑥ 8 · 17、

⑧ 10 · 14

飯田易義……………② 26

芟園……………② 19

伊熊叔母……………④ 9

池田勘助 (池田) ……① 20 · 24、② 19

伊沢恂斎 (恂斎) ……⑪ 17、⑫ 5 · 15

伊沢兵九\* (伊、伊沢) ……① 2 · 6 · 9 · 12 · 16 · 17 · 20 · 22 · 27、

② 1 · 4 · 10、⑩ 19、⑫ 3

(伊沢生の爺) 可十……………⑩ 19

石……………⑨ 2

石井……………① 5、② 22

石井弓場\*……………① 11 · 21

石野伝兵……………⑤ 5

(石野伝兵の子) 巳ノ吉……………⑤ 5

(石野伝兵の子) 由次……………⑤ 5

石橋三英\* (石橋、三英) ……① 2 · 26、⑥ 11

伊勢四郎舎 (伊勢舎) ……③ 2 · 6

一允……………④ 4

一斎 ↓ 佐藤一斎

一紫夫人……………⑦ 20

一奴……………⑩ 2

稲垣欽之丞\*……………⑥ 12

井上主□ (判読不能の字は税或は敬) (井上) ……⑪ 5 · 7 · 9 · 11

妹 ↓ (成島柳北の) 妹

岩松重斎\* (岩、岩松) ……① 26、⑥ 17 · 19、⑦ 19

岩山 ↓ 一橋宮女岩山

隠婆……………⑥ 6

[う]

植村\*……………⑦ 19

右京殿……………⑦ 23

宇都宮周格 (宇都) ……④ 11、⑪ 22

乳母……………① 23

[え]

越後平藏……………⑥ 17

江目芳太\* (江目) ……⑥ 2 · 16

円阿弥翁……………⑤ 19

遠藤但馬守\* (遠但州) ..... ③ 23、⑥ 15

【お】

老之助 ↓ (松岡翁の児) 老之助

近江店佐兵衛 (古銭翁) ..... ⑩ 19、⑪ 11

王父君 ↓ 成島司直

大久保氏 ..... ② 29

大久保駿州 ..... ② 11

大久保弥九 ..... ⑧ 27

太田盛 ..... ② 16、③ 30

大和田善太\* (大、大和、大和田) ..... ① 2・7・9・13・17・18・

24・26、② 4・9・16・19、③ 6、⑤ 5、⑨ 2、⑩ 19、⑪ 10

岡本\* (岡) ..... ⑧ 16、⑪ 19

小笠原若州 ..... ② 11

小川健暨\* (健) ..... ④ 29

小川佐左\* (小川) ..... ① 15、⑥ 9、⑦ 24、⑪ 8・20

小野梧蔭\* (小野、梧蔭) ..... ① 2・6・26、② 17、⑤ 9・12

叔母 ↓ 狩野叔母

叔母君 ↓ (佐野の) 叔母

伯母君 ↓ (山田の) 伯母

【か】

学齋子 ↓ 林学齋

学生 ..... ① 29

確堂主人 ↓ 成島柳北

学童 ..... ① 20、③ 21、⑤ 12・24

閣老 ..... ④ 11

鹿兒立三\* (鹿兒、鹿兒立) ..... ① 5・17、② 19、⑤ 2、⑦ 24、⑧ 10

梶野機一 ..... ① 2

可十 ↓ (伊沢生の爺) 可十

柏原\* ..... ③ 21、④ 2・4・6、⑥ 10、⑦ 9、⑩ 28

柏原信次\* (柏原信) ..... ① 22

家族 ..... ④ 26

家孥 ..... ② 15

金子蕤香\* (金、金子) ..... ① 26、⑦ 19、⑧ 18、⑨ 21

(画) 狩野氏 ..... ① 4

狩野\* ..... ② 5、③ 1・2・12、④ 5、⑥ 20、⑦ 17、⑩ 27、⑪ 4・

6・16・24、⑫ 16・17

狩野叔母\* (叔母、狩叔母) ..... ③ 12・13、⑤ 13、⑥ 6、⑦ 16・25、

⑧ 2・4・17・21

狩野阿幸 (幸) ..... ② 26・28、③ 12

狩野春川\* (春川、狩春川) ..... ③ 29、④ 9、⑦ 16、⑨ 15、⑩ 26、

⑫ 29

狩野勝川\* ..... ① 7

狩野探原 (狩探原) ..... ② 25

狩野董川\* (狩野董叔、董叔) ..... ① 5、② 26、⑤ 6、⑦ 18・23・24、

⑧ 12・27、⑨ 15・17・19・28、⑩ 26、⑪ 26、⑫ 29  
 嘉平\* (嘉兵) ..... ③ 6、⑤ 12、⑨ 8、⑫ 16  
 河尻式部 ..... ⑥ 10  
 川田屏浦 ..... ⑫ 7  
 河村家 ..... ⑦ 22  
 川邑助治\* (川村助治) ..... ⑧ 24、⑫ 7  
 川村对州 ..... ⑤ 11  
 菅幾五 (幾五) ..... ⑤ 21  
 (菅幾五) 父 ..... ⑤ 21  
 勘定奉行 ..... ⑩ 13  
 咸三 ↓ 飯田咸三 ..... ⑥ 10  
 完戸鑑次\* ..... ② 19、④ 29、⑥ 10  
 完戸健一郎\* (完、健一郎) ※雄三から改名。 ..... ④ 29  
 ⑤ 17・22・30、⑥ 8・9、⑦ 7・24、⑧ 6

〔き〕

奇人 ↓ 青山奇人 ..... ② 19、④ 29、⑥ 10  
 北角\* ..... ① 2、② 22、④ 7、⑤ 9、⑥ 3・13・14、⑧ 13、⑫ 27  
 北畠武七 ..... ⑤ 17  
 木村勝右 ..... ⑦ 3・5  
 木村勘助 ..... ⑨ 20  
 木村金平 ..... ④ 25  
 久三 ↓ 名倉久三 ..... ④ 25

橋 ↓ 一橋家

協 (成島家の婢) ..... ⑩ 24

経性 ..... ③ 29

京藏\* (京) ..... ① 12、③ 2・5、⑥ 14

玉泉 ..... ① 14

御史 ..... ⑤ 16

〔く〕

久貝因州 ..... ⑥ 16

艸雜吉五\* ..... ⑪ 21

久世 ..... ② 11

愚輩 ..... ⑥ 6

熊藏 (抹消部分) ..... ⑦ 5

倉商 (廩商、廩賈、藏店、米商、倉店) ..... ① 15、② 22、⑤ 29、⑦ 16・17、⑪ 1・3、⑫ 27

倉地言行 ..... ⑧ 14

倉地次郎八\* (倉地次八) ..... ① 5

〔け〕

敬之助 ..... ⑩ 14

健一郎 ↓ 完戸健一郎 ..... ⑩ 14

恂斎 ↓ 伊沢恂斎 ..... ③ 29

見性 ..... ③ 29

【一】

梧蔭 ↓ 小野梧蔭

幸 ↓ 狩野阿幸

恒篠 ↓ 杉本忠達

高玉\*

甲州 ↓ 朝比奈甲州

孝次

広次 ↓ 渡辺広次

広治 ↓ 渡辺広次

恒蔵 ↓ (関雪江の弟) 恒蔵

郷田

田府公

古賀謹一 (古賀)

小島隼太

古銭翁 ↓ 近江店佐兵衛

小林栄太\* (林、林栄、小林栄)

⑤ 9・16、⑥ 23、⑦ 11、⑧ 7、⑩ 14

小南鉉次\* (南、小南、小南鉉) ..... ① 2・3、② 11、④ 6・7、⑥ 7、⑦ 21

⑥ 7、⑦ 21

小山縫右\*

御用掛衆 (御用懸)

権翁 ↓ 安積良斎

良翁 ↓ 安積良斎

権斎 ↓ 安積良斎

良斎 ↓ 安積良斎

【さ】

細

細君 ↓ (成島柳北の) 妻・細君

祭酒 ↓ 林祭酒

阪井右近

坂上玄伸\*

坂上玄順

阪上玄丈\*

酒向\*

佐久間\*

笹川文

佐々木近江守\*

佐州 ↓ 牧野佐州

佐叔 ↓ 佐野叔

佐藤一斎 (捨蔵、佐藤捨蔵、一斎翁) ..... ① 5、④ 23

佐藤駒次\*

佐野

佐野阿梅

佐野叔\* (佐叔)

⑩ 2

① 23

⑤ 3

⑥ 3

⑤ 19

⑥ 23

⑦ 21

① 26

⑥ 16

① 8

⑤ 19

① 19

④ 11

③ 6

② 14

④ 11

⑧ 27

② 11、④ 5・7・8・11、⑤ 9・16、⑥ 23、⑦ 11、⑧ 7、⑩ 14

① 24、④ 24、⑦ 2

④ 22、⑩ 1

① 24、④ 24、⑦ 2

① 5、⑤ 5、⑨ 25、⑩ 3、⑪ 13、⑫ 18

② 29、⑦ 26、⑦ 19

(佐野の) 叔母君……………⑦ 26

佐兵衛 ↓ 近江店佐兵衛

三英 ↓ 石橋三英

三塾生(石・竹・?)……………⑨ 2

三生(青木・大和田・伊沢)……………① 15・20

参政……………① 1、④ 11

参政五人……………⑩ 1

[じ]

児 ↓ (松岡翁の) 児 老之助

児 ↓ (舟橋晴潭の) 児

(各) ↓ 児(長尾叔・山田叔母・伊熊叔母の) 児……………④ 9

塩谷中務\*……………⑥ 8

児童……………③ 9

篠木大次\*(篠木)……………⑦ 20、⑨ 19、⑩ 22

秋月 ↓ 舟橋晴潭

舟晴潭 ↓ 舟橋晴潭

肅壮公\*(肅公)……………③ 11、④ 21、⑥ 12、⑪ 6・10・11

狩叔母 ↓ 狩野叔母

狩春川 ↓ 狩野春川

狩探原 ↓ 狩野探原

春川 ↓ 狩野春川

上 ↓ 大君

東海林儀三(儀三)……………⑤ 17

上生母 ↓ 本寿院跡部氏

常性……………③ 29

諸孛……………② 26

仁讓殿……………⑦ 6

慎徳公(公、徳川家慶)……………⑦ 22

[す]

杉恒蓐 ↓ 杉本忠達

杉原平助(杉原心斎、平助)……………④ 23

杉本忠達\*(杉本、杉本達、恒蓐、杉恒蓐)……………① 3・22、③ 5・

11・24・27、④ 4、⑦ 12、⑨ 7、⑪ 10・22

鈴木……………① 5

鈴木宗休\*(鈴宗休)……………② 2、③ 10

鈴木妻\*

鈴昌芳……………⑨ 19

捨藏 ↓ 佐藤一斎

駿河守殿(駿州)……………⑦ 5・6

[せ]

清行尼……………① 21

西光菴尼主……………⑤ 27

成実尼……………① 14、③ 29

晴潭 ↓ 舟橋晴潭

勢店 ↓ 安兵	.....	
関雪江* (関、雪江)	.....	① 26、④ 16、⑥ 19、⑧ 25、⑨ 21
(関雪江の弟) 恒藏	.....	① 26
雪江 ↓ 関雪江	.....	
船 ↓ 舟橋晴潭	.....	
仙台書生 (仙台上)	.....	② 16、⑤ 17
【そ】		
祖君 ↓ 成島司直	.....	
祖父君 ↓ 成島司直	.....	
【た】		
大 ↓ 大和田善太	.....	
台駕 ↓ 大君	.....	
大学頭 ↓ 林祭酒	.....	
大君* (上、台君、台駕、徳川家定)	.....	② 11、④ 15・27、⑩ 2・3
大和 ↓ 大和田善太	.....	
高橋幸次	.....	① 14
高村隆円	.....	⑥ 11
高山良之助* (高山、高山良)	.....	⑤ 27、⑥ 3・9・16・17・27
多紀安琢* (多紀法印)	.....	⑥ 23、⑦ 17・19
竹内弘助 (竹、竹内)	.....	⑥ 11・12・23、⑨ 2、⑩ 2
竹内留助	.....	④ 5
竹撰津守 (撰州)	.....	④ 22、⑤ 11
竹田道庵	.....	⑤ 9
田沢兵庫頭 (田沢兵庫)	.....	⑤ 17、⑧ 26
田辺	.....	⑥ 16
田辺脩*	.....	④ 18、⑤ 6・10、⑥ 10
田辺平三* (田辺平)	.....	⑦ 21
田村	.....	⑩ 2
田村宗達* (田村達)	.....	⑩ 2
田安家* (田)	.....	① 1、⑥ 7
丹後守殿 (丹後殿、丹州)	.....	② 1・2、⑤ 19、⑫ 3
但州 ↓ 遠藤但馬守	.....	
丹波守殿	.....	⑫ 1
【ち】		
父 ↓ (普幾五の) 父	.....	
中書各君	.....	⑤ 11
忠助 ↓ 秋山忠助	.....	
長叔 ↓ 長尾叔	.....	
【こ】		
辻龍之助* (辻、辻龍助)	.....	② 23、⑥ 14、⑦ 14
津田小十郎 (津田小十)	.....	⑥ 9、⑫ 23・25
津田信助*	.....	① 7
筒井万輔* (筒井、筒井万)	.....	① 12、③ 18、⑤ 30、⑥ 16、⑧ 24、⑫ 17

常(成島家の婢)……………⑩ 24  
妻 ↓ (成島柳北の) 妻

〔て〕

貞操夫人……………③ 1・2  
寺地強平……………⑧ 5  
田 ↓ 田安家

〔と〕

等行\*(等尼)……………② 19、⑦ 6、① 7、③ 29、⑩ 2  
董玉……………  
董叔 ↓ 狩野董川……………① 18  
藤堂侯\*……………② 1・10、⑤ 10、⑦ 5、⑨ 29、⑪ 30、⑬ 20

頭取書役……………  
頭取……………  
頭取撰州 ↓ 竹撰津守……………⑥ 20  
等尼 ↓ 等行……………  
渡生 ↓ 渡辺広次……………③ 3  
奴婢……………  
留……………⑧ 29

戸矢権八(戸矢)……………④ 6・17・27、⑤ 6・17・27、⑥ 5・16、⑦ 12、⑧ 29

〔な〕

内藤君……………② 11  
直藏……………① 2

中務少輔……………⑦ 23  
中根長十……………⑥ 6  
中根豊八……………② 19

中村建三(中村建)……………⑦ 17・24、⑧ 30、⑩ 29

中村貞庵……………⑨ 5

長尾叔\*(長叔、長尾)……………① 2、④ 4・9、⑥ 8、⑨ 8

長屋陽一……………⑧ 4

名倉久三\*(名倉、久三)……………① 2、⑧ 14

夏目左近將監\*(夏目)……………⑤ 20

成島司直\*(祖父、祖父君、祖君、王父君)……………② 18・19、③ 2、⑥ 15、⑦ 4・17・23・24・25、⑨ 18、⑩ 2・3、⑪ 4・6・11、⑬ 19

成島柳北\*(確堂主人)……………⑫ 29

(成島柳北の) 妹……………⑫ 29

(成島柳北の) 妻・細君\*……………② 19、③ 2・12、④ 5・7、⑤ 13、⑦ 6、⑩ 2、⑪ 4、⑫ 19

(成島柳北の) 母君・北堂\*……………② 19、③ 12、④ 5、⑩ 2・3・20、⑪ 4・8・17、⑫ 19

南 ↓ 小南鉦次……………

西村左兵衛\*……………⑪ 18

二生(石・竹内)……………⑨ 2

〔に〕

二生 (青木銀三・大和田善太) .....	⑤ 5	備州 .....	② 12
尼僧 .....	⑥ 6	(両) 平岡家 .....	⑤ 20
日慧 ↓ 峰観智院僧日慧 .....	⑥ 6	平野雄三* (雄三) .....	① 6、⑦ 29
尼婆 .....	⑤ 27	蜷川 .....	⑤ 20
萩原文左* .....	④ 27	復* .....	② 14、③ 2、⑥ 14、⑦ 6、⑧ 4
幡野亮輔 .....	⑥ 10	⑪ 17、⑫ 19 .....	② 14、③ 2、⑥ 14、⑦ 6、⑧ 4
花田鉄太* .....	① 23	福山侯 ↓ 阿部正弘 .....	⑥ 20、⑦ 27、⑧ 4
塙次郎* .....	⑥ 8	藤沢順三* (藤沢) .....	⑥ 20、⑦ 27、⑧ 4
母君 ↓ (成島柳北の) 母君 .....	④ 11	藤沼富三 .....	⑦ 2、⑧ 6、⑨ 7
馬場九七 .....	④ 11	舟橋晴潭* (船、舟橋、晴潭、舟晴潭、秋月) .....	① 2、② 16、③ 1、④ 10、⑤ 7、⑥ 11、⑦ 16、⑧ 22、⑨ 21、⑩ 11、⑪ 23、⑫ 24
林家 (大学頭) 関係 ↓ 林 (りん) の項 .....	④ 11	(舟橋晴潭の) 児 .....	⑥ 11
林栄 ↓ 小林栄太 .....	④ 11	文三翁* (文叟、文翁) .....	③ 6、⑨ 2、⑩ 15
原弥十郎 (原弥十) .....	⑥ 30、⑦ 10		
〔ひ〕			
(両) 婢 .....	② 21	〔へ〕	
(二) 婢 .....	④ 4	米商 ↓ 倉商 .....	③ 6、⑨ 2、⑩ 15
婢 (等行尼の) .....	⑩ 2	平助 ↓ 杉原平助 .....	③ 6、⑨ 2、⑩ 15
婢 (成島家の) .....	⑩ 2	弁婢 .....	③ 6、⑨ 2、⑩ 15
一橋家* (橋、一橋宮、一橋府) .....	① 1、⑤ 6、⑥ 6、⑦ 7	〔ほ〕	
(一橋宮女) 岩山 ※翻字存義 宏山か .....	⑥ 6	峰観智院僧日慧 .....	⑤ 28
(二橋府宮尼) 楨浦 .....	⑤ 6	北越店 .....	⑦ 19



北堂 ↓ (成島柳北の) 母君・北堂

星野録三\* ..... ⑤ 11

細井 ..... ⑥ 7

細井百助 ..... ③ 2

細井安次\* ..... ② 21

堀豆州妻 ↓ 林祭主姉

本阿弥正佐\* (本阿弥) ..... ④ 14、⑤ 14、⑥ 1、⑦ 1

本覚\* ..... ① 27、⑥ 3、⑧ 8、⑧ 22

本郷丹州\* (本郷) ..... ⑤ 20

本寿院跡部氏 (上生母、本寿夫人) ..... ⑨ 23、⑩ 25

本庄君 ..... ② 11

本多君 ..... ② 11

【ま】

前田善助\* (前田) ..... ① 13、② 24、⑥ 11

前原三蔵 ..... ⑦ 23

榎浦 ↓ 一橋府宮尼榎浦

牧野佐州 (佐州) ..... ③ 7、⑨ 23

松岡爺 (松岡翁) ..... ④ 1、⑤ 12

(松岡翁の兄) 老之助 ..... ⑤ 12

松岡肇\* (松岡) ..... ① 15、② 28、⑥ 20、⑦ 19、⑧ 14、⑨ 16、⑨ 26

⑩ 15、⑪ 2、⑩ 10、⑩ 11、⑩ 16

松平伊賀守 ..... ⑧ 4

松平和泉守\* ..... ⑧ 4

松平健之助 ..... ③ 8

松本 ..... ⑪ 12

曲直瀬 ..... ⑪ 30

【み】

水谷亮蔵\* (水谷) ..... ① 2

巳ノ吉 ↓ (石野伝兵の子) 巳ノ吉

三橋寅次\* ..... ⑥ 21

宮 ..... ⑧ 16

宮内少輔 ..... ② 12

宮田文吉\* (宮田) ..... ② 13、⑧ 18、④ 24

宮本庫之助 ..... ① 26

【む】

睦 ..... ⑥ 14、⑥ 26

村垣弟太 ..... ⑥ 9

【も】

孟子 (孟) ..... ② 20、③ 20、④ 11、⑧ 20、⑧ 20、⑨ 20

主水殿 ..... ② 2

【や】

安兵 (勢店) ..... ② 5

矢田堀景蔵 ..... ⑤ 30

柳沢修理亮 (柳沢) ..... ⑤ 19、⑩ 2

山岡熊次……………⑨ 17

山田……………① 1、⑥ 7

山田叔母……………④ 9

(山田の) 伯母……………① 1

【ゆ】

湯浅猪之助……………⑧ 24

雄三 ↓ 平野雄三

(雄三の義父) ↓ 渡瀬龍之介

由比太左……………⑥ 10

【よ】

芳……………⑥ 14

由次 ↓ (石野伝兵の子) 由次

【り】

隆豊翁……………② 30

両狩野氏 ↓ (両) 狩野氏

両平岡氏 ↓ (両) 平岡氏

林 ↓ 小林栄太

林栄 ↓ 小林栄太

林学斎(学斎子)……………③ 8、⑨ 27、⑪ 23

林祭酒(祭酒、大学頭、林復斎)……………① 29、③ 8・15・18・25、④ 4

8・11・21、⑥ 1・3・8・9・13・15・16・30、⑦ 23・24、⑨

23、⑩ 23、⑪ 3

林祭主姉(堀豆州(堀利堅)妻)……………⑨ 8

(両) 林子(復斎と学斎)……………① 17

林氏\*……………① 25、③ 8・25、④ 25、⑤ 25、⑧ 20・25、⑨ 25、⑩ 3・13、⑪ 23

林図書助\*(林図、林鶯溪)……………④ 11

廩賈 ↓ 倉商

廩商 ↓ 倉商

渡瀬……………⑪ 10

渡瀬龍之介(雄三の義父)……………⑦ 29

渡辺広次(渡、広次、広治)……………① 15、② 25、⑤ 10

(渡辺広次の兄) 渡辺良琢……………⑤ 10

渡辺三十……………③ 14

渡辺安太……………⑥ 17

渡辺良琢 ↓ (渡辺広次の兄) 渡辺良琢

(山口 旬)

【わ】